

しもはら
111. 下原遺跡

所在地	大分県野津原町大字下原	調査面積	300㎡
調査原因	大分川ダム建設	担当者	総貫 俊一
調査期間	960219～960220	遺跡処置	次年度本調査
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	新発見

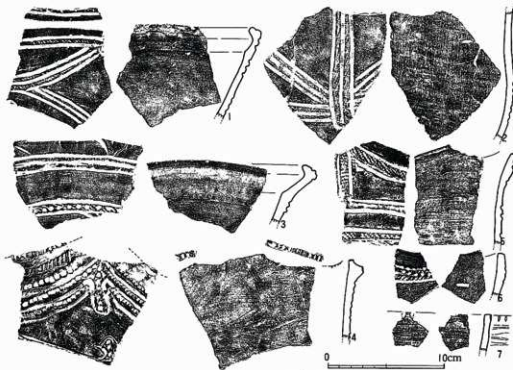
概要 建設が予定されている大分川ダムの関連道路建設に伴う試掘調査を行った。道路予定地内に12ヶ所のトレンチを重機を用いて耕作土を除去し、人力によって精査した。

その結果、2ヶ所のトレンチから縄文時代後期初頭～前半に属する土器が多量に出土した。中津式、西和田式、福田K2式、コウゴ一松式が集中していた。石器類は意外に少なかった。七瀬川中流左岸の河岸段丘上好位置に立地しており、堅果類の採取を主体とした生活が想像される。

(縮貫)



下原遺跡位置図
(地形図『野津原』使用)



下原遺跡S×1の土器実測図

112. ^{いしふる}石風呂遺跡

所在地	大分県挾間町大字吉野字石風呂	調査面積	2100㎡
調査原因	道路建設	担当者	玉永 光洋・濱田 教靖
調査期間	950511～951013	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	新発見

位置 本遺跡は、挾間町北部の大分川とその支流である賀来川に挟まれた標高約100の西方から比高差は約60mである。

遺構・遺物 調査の結果、弥生時代後期終末を中心とした竪穴住居跡・土坑・壺棺に、中世～近世におよぶ独立柱建物跡・溝状遺構を検出した。検出した竪穴住居跡の総数は6基で、その内2基からは、石皿と想定される平坦な石が出土した。平面プランは、隅丸方形・方形のいずれかである。検出住居の時間的な存続幅は、出土土器から弥生時代後期終末～古墳時代初頭に求められる。壺棺墓は、肩部上部を打ち欠いた壺形土器に、頸部に突帯を巡らした浅鉢を用いて蓋をしている。今調査での検出数は1基のみである。

多数検出された柱穴のうち独立柱建物が1棟並んだ。この柱穴中の一つから、底部に穿孔のある土師質小皿が出土し、この建物が中世の遺構であることが想定されよう。

弥生終末期の2号住居跡のほぼ中央を溝状遺構が切り合っている。この溝状遺構から近世陶磁器の破片が多数出土していることから近世の水田への用水に使っていた暗渠の跡であろう。現在、水は通っていない。(濱田)



石風呂遺跡位置図
(地形図『大分』使用)



石風呂遺跡全景

113. 北屋敷ツル遺跡

所在地 大分県挾間町大字吉野字北屋敷ツル
 調査原因 道路建設
 調査期間 951016～960301
 調査主体 大分県教育委員会

調査面積 4600㎡
 担当者 玉永 光洋・濱田 教靖
 遺跡処置 計画通り施工
 台帳番号 新発見

位置 本遺跡は、挾間町北部の古野台地に立地した大分医科大学より、西へ約2kmほどのところに位置する。この台地上には、弥生時代の赤野遺跡や、由布川小学校遺跡がすでに周知されており、今回は、その周知遺跡間の調査となった。

遺構・遺物 調査の結果、弥生時代後期末を中心とした竪穴住居跡・土坑、溝状遺構、中世の掘立建物跡・柱穴多数、時期不明の落し穴状遺構が検出された。

住居跡の平面プランは、方形を呈し、遺跡に隣接する谷水田を見下ろすように一定間隔で並んで検出された。住居跡から出土した土器は弥生終末期である。その内の3号住居跡からは、土製勾玉が出土した。そして、調査区のほぼ中央付近からは、幅約1.5m～2.0mの溝状遺構が検出された。今回の調査範囲は道路幅のみであったため、遺構の全体的な広がりを掴むことは出来なかった。しかし、その検出状況から台地を横断するように、構築されたと想定される。断面はV字形をなし検出面からの深さは、約80cmを測る。覆土からは弥生終末期～古墳前期初頭に比定される土器が大量に出土し、製塩土器の底部も出土した。また、出土遺物のうち検出状況で原形を保ったままのものも数多く存在する。(濱田)



北屋敷ツル遺跡位置図
 (地形図『大分』使用)



北屋敷ツル遺跡遺構配置図

114. 家野遺跡

所在地	臼杵市大字家野	調査面積	45㎡
調査原因	道路建設	担当者	神田 高士
調査期間	950903～950913	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	臼杵市教育委員会	台帳番号	323057

概要 調査位置は、山裾を切り開いて畑地とした
場所ので、遺構・遺物は確認されなかった。
(神田)



家野遺跡位置図
(地形図『臼杵』使用)

115. 臼杵石仏群地域

所在地	臼杵市大字深田	調査面積	1000㎡
調査原因	河川改修	担当者	菊田 徹
調査期間	951201～960315	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	臼杵市教育委員会	台帳番号	323061

位置 臼杵川中流域、臼杵磨崖仏周辺一体に広がる
深田盆地に立地する、中世寺院関連遺跡で
ある。今回調査を行ったのは、西深田川に沿
った、古園石仏下の水田である。

遺構 なし

遺物 中・近世陶磁器
中・近世瓦

まとめ 寺院関連の遺構は発見されなかった。
(菊田)



臼杵石仏群地域遺跡位置図
(地形図『臼杵』使用)

116. おおの大野遺跡

所在地	白杵市大字大野	調査面積	200㎡
調査原因	道路建設	担当者	神田 高士
調査期間	951101～951111	遺跡処置	次年度本調査
調査主体	白杵市教育委員会	台帳番号	323033

概要 谷地形の斜面部から谷底部にかけて調査したところ、それぞれで小さな溝状遺構が検出された。
(神田)



大野遺跡位置図
(地形図『白杵』使用)

117. きょうかわ京川遺跡

所在地	白杵市大字	調査面積	1500㎡
調査原因	道路建設	担当者	三島 有子
調査期間	951201～960331	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	白杵市教育委員会	台帳番号	323052

位置 白杵川下流域、白杵磨崖仏(大日石仏)周辺の谷地形に立地する。中世寺院関連遺跡である。今回調査を行ったのは、磨崖仏北側斜面部と、その西側丘陵部である。西側丘陵部の小字は京塚であるが、経塚の転化したものと考えられる。東側丘陵部は中世寺院推定地である円福寺遺跡で、以前の調査で包含層から大和型瓦器をはじめとする搬入品が多数出土している。

遺構 なし

遺物 中・近世陶磁器
中・近世瓦

まとめ 寺院関連の遺構の発見が期待されたが、これらの存在が推定できる資料の発見は成されなかった。
(三島)



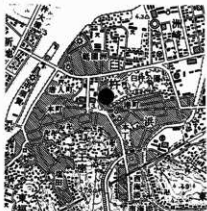
京川遺跡位置図
(地形図『白杵』使用)

118. 史跡白杵城跡

所在地	白杵市大字白杵字丹生島	調査面積	80㎡
調査原因	豊櫓解体修理工事	担当者	菊田 徹
調査期間	960118～960131	遺跡処置	調査後埋戻し
調査主体	白杵市教育委員会	台帳番号	323068・指323034

位置 白杵市街地の中心部に位置する丹生島は、16世紀半ばに、白杵城が築かれて以来、19世紀の半ばまで、白杵城の中核部分となっていた場所である。19世紀までは文字通り海の中の島であったが、現在は市街化が進み、独立丘陵となっている。

今回調査を行ったのは、丹生島の西部の崖上に位置する。豊櫓の基礎部分である。



史跡白杵城跡遺跡位置図
(地形図『白杵』使用)

遺構 礎石

遺物 近世瓦
近世陶磁器

まとめ 豊櫓は、少なくとも近世に2度の立替を行っているが、今回の調査では、はっきりとその痕跡はみつからなかった。(神田)

しもなかお
119. 下中尾遺跡

所在地	白杵市大字中尾字観音寺	調査面積	700㎡
調査原因	急傾斜地改良	担当者	菊田 徹
調査期間	950801～951019	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	白杵市教育委員会	台帳番号	323060

位置 白杵川中流域、白杵磨崖仏西側に位置する中尾台地上に下中尾遺跡は立地する。今回調査をおこなったのは、遺跡の北縁部にあたる観音寺地区である。

遺構 古墳 1
溝状遺構 2
段状遺構 1
古墳の名称は、観音寺古墳とした。

遺物 古墳周溝から布留期の古式土器多数。また、この周溝からは東播系播鉢片も出土している。

まとめ 観音寺古墳は、西側に小さな突出部を設ける円墳状を呈する、4世紀前半代のものとみられる。その破壊の時期は、14世紀代と考えられる。(神田)



下中尾遺跡位置図
(地形図『白杵』使用)

のむらだい
120. 野村台遺跡

所在地	臼杵市大字野田字御霊畑	調査面積	250㎡
調査原因	道路建設	担当者	神田高士
調査期間	950701～950808	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	臼杵市教育委員会	台帳番号	323054

位置 臼杵市街地より南東方向へ約2km、臼杵川右岸の標高30mの台地上に、本遺跡は位置している。後背地である南側には鎮南山系から伸びる尾根が続き、北側は臼杵川ぞいに展開する水田地帯が広がっている。

今回調査を行ったのは、台地中央部の御霊畑地区である。付近には御霊社と呼ばれ、鎌倉権五郎と大野秦基を祭神とする神社がある。



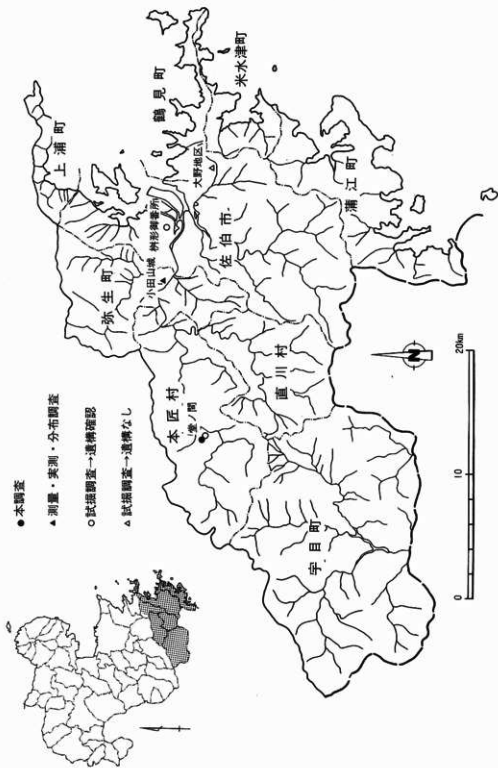
野村台遺跡位置図
(地形図『臼杵』使用)

- 遺構 中世溝 3
 竪穴式住居 1
 柱穴 多数
 土坑 4基

- 遺物 白磁Ⅳ・Ⅴ類碗
 龍泉系青磁碗
 須恵器杯
 土師質土器(12～15世紀)
 近世陶磁器

まとめ 中世溝は、いずれも幅50cm、深さ70cmほどのもので、うち2本は平成6年度に発見されたSDO5に平行するものである。時期的にみても、輸入陶磁器の様相や、土師質土器の出土状況から、SDO5と同時期に廃棄された可能性が高い。(神田)

佐伯・南海部地域



121. 小田山城跡

所在地	南海部郡弥生町大字上小倉字栃原他	調査面積	200㎡
調査原因	林道建設	担当者	高橋 徹
調査期間	950620～960331	遺跡処置	調査後埋戻し
調査主体	弥生町教育委員会	台帳番号	432001

概要 小田山城跡は、町の東部にある小田山の頂上に位置し、榑牟礼山に隣接している。調査は、林道建設に伴う事前調査として行われたが、小田山城と榑牟礼城を結ぶ何らかの施設の存在、またその広がりについての調査が行われた。その結果、小田山城の縄張りを明かにすることができ、築城の時期が推定された。また榑牟礼城とは縄張りが異なり、二つの城はそれぞれその完結した縄張りとなっていることが実測図作成で明確になった。(高橋)



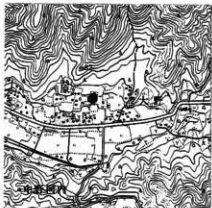
林道路線及び試掘調査区位置図

122. 大野地区

所在地	佐伯市大字木立字大野	調査面積	35㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	宮内 克己・吉武 牧子
調査期間	950629～951011	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	

概要 調査対象地区は木立川の支流を見下ろす緩傾斜地を利用した畑地に位置する。工事は幅約1mの市道を4mに拡幅するもので工事延長は350mである。

調査は現道路下に埋められている水道管を避けるため、重機を使用して道路両側に幅70cmレンチを5本入れて行った。各レンチとも耕作土を55～100cm掘り下げると黄褐色土層、黒褐色土層の順に堆積していたが、いずれの層でも遺構は確認できず、遺物も出土しなかった。よって工事の実施に当たり問題はないと判断し、予定通り工事を行った。(吉武)



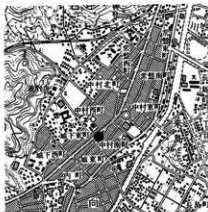
大野地区位置図
(地形図『佐伯』使用)

123. 枳形御番所遺跡 (佐伯城下町)

所在地	佐伯市中村南町2146番地3,10143番6	調査面積	111.12㎡
調査原因	駐車場建設	担当者	村上 久和・吉武 牧子
調査期間	960226～960227	遺跡処置	盛土保存
調査主体	佐伯市教育委員会	台帳番号	430012

概要 遺跡は市街地の中心部、番匠川河口の沖積地に位置する。調査対象面積は駐車場予定地の約1404㎡の範囲である。調査は幅3m程のトレンチを5カ所設定して行った。その結果両側を石垣で固めた側道状遺構、杭列、掘状遺構などを確認した。遺物は18世紀後半以降の近世陶磁器類が主体であった。

「佐伯藩時代屋敷図」（明治4年頃）によると、この場所は弓射場と枳形御番所となっているが、出土した遺構がこれらの施設に伴うものであるかどうかは確認できなかった。遺跡の取り扱いについては協議の結果、盛土保存することとなった。（吉武）



枳形御番所遺跡位置図
(地形図『佐伯』使用)

124. 堂ノ間遺跡

所在地	南海部郡本匠村大字堂ノ間	調査面積	3000㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	染矢 和徳
調査期間	960311～960326	遺跡処置	次年度本調査
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	433005

概要 堂ノ間遺跡は本匠村西部を流れる番匠川と七又川がつくりだす沖積地と河岸段丘上に位置し、縄文時代と中世の遺物を包蔵する遺跡と知られている。調査区に隣接する地区は平成7年度に県営圃場整備事業に伴い発掘調査を実施しており、縄文時代前期の包含層と中近世の掘立柱建物跡を確認している。試掘調査の結果、弥生時代後期末の遺物を伴う竪穴住居跡2基、土坑2基、柱穴群を確認した。

(染矢)



堂ノ間遺跡位置図
(地形図『隈嶺山』使用)

125. 堂ノ間遺跡^{どうのま}

所在地	南海部郡本匠村大字堂ノ間	調査面積	1000㎡
調査原因	県営圃場整備事業	担当者	後藤 一重
調査期間	950522～950731	遺跡処置	埋土保存
調査主体	本匠村教育委員会	台帳番号	433005

位置 調査対象地区は本匠村大字堂ノ間123番地他にあたり、番匠川の上流域に位置する谷間の平野で、古くから水田地帯として利用されている。近くには、村指定史跡の「三竈江古戦場跡」が存在する。

遺構 中近世の掘立柱建物跡や土坑が検出された。

遺物 縄文前期の土器片をはじめ、石鏃、石匙、打製石斧、中世土師器、近世陶磁器、古銭等約2,000点が出土した。

まとめ 多数の遺物が出土したが、中でも縄文前期の土器はこの時期のまとまった資料として重要である。本遺跡は、縄文時代における当地域の拠点的な集落であったことが考えられる。
(後藤)

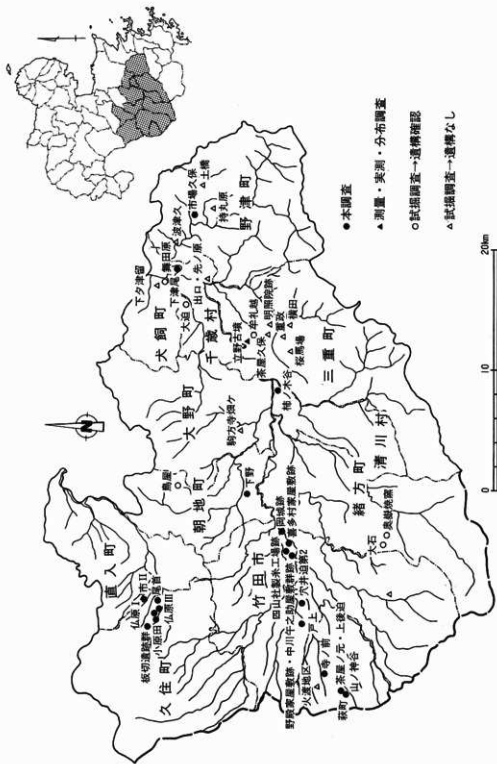


堂ノ間遺跡位置図
(地形図『黒嶺山』使用)



調査状況

竹田・直入・大野地域



126. ^{しもたつる}下夕都留遺跡

所在地	大野郡犬飼町大字犬飼53-1,55	調査面積	732㎡
調査原因	郵便局建設	担当者	中野 宏一
調査期間	950404～950413	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	犬飼町教育委員会	台帳番号	547037

概要 調査地点は町の商店街の中にあり、付近に岡藩時代の参勤交代道路や当時の犬飼港跡が残されている。このため当時の民家跡等の遺構が検出されると考えられたが、調査の結果、遺構は何も検出されず、陶器片が数点見つかったのみであった。(中野)



下夕都留遺跡位置図
(地形図『犬飼』使用)

127. ^{でくち さきのほろ}出口・先ノ原遺跡群

所在地	大野郡犬飼町大字下毛字奥城	調査面積	1000㎡
調査原因	県営畑総整備事業	担当者	後藤 一重
調査期間	960122～960125	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	547064

概要 調査対象地区は既に周知の遺跡である。分布調査の際にも周辺の畑地か弥生土器片が採集された。この地区は以前、深耕事業に伴う事前の試掘調査が実施されており、その際には遺構・遺物は確認されていない。遺物の散布状況がかなり散発的なことから、台地上に住居跡が点在する状況であろうと推定される。調査の結果、遺構はまったく検出されず、縄文、旧石器時代の包含層も確認されなかった。(後藤)



出口・先ノ原遺跡群位置図
(地形図『犬飼』使用)

文献：「大分県内遺跡発掘調査概報」4
大分県教育委員会 1996年

まいたばる
128. 舞田原遺跡

所在地	大野郡犬飼町大字田原字舞田	調査面積	1600㎡
調査原因	リバーパーク建設	担当者	中野 宏一
調査期間	950317～950630	遺跡処置	保存（石塔等は移転保存）
調査主体	犬飼町教育委員会	台帳番号	547050

概要 遺跡は以前に弥生時代中期から古墳時代初頭の住居跡や遺物を多量に出土した地点より南側の一段低い標高60mから65mの台地に位置している。

今回調査を行った箇所では弥生時代中期から古墳時代初頭の住居跡及び遺物は出土しなかったが、横穴墓が1箇所と、江戸時代中頃のものと思われる石塔、石碑等が13基確認された。
(中野)



舞田原遺跡位置図
(地形図『犬飼』使用)



横穴墓検出状況



石塔石碑類

129. 下津尾遺跡

所在地	大野郡犬飼町大字下津尾字犬飼山	調査面積	2450㎡
調査原因	道路建設	担当者	中野 宏一
調査期間	950401～960331	遺跡処置	計画通り施工（石畳は保存）
調査主体	犬飼町教育委員会	台帳番号	新発見

概要 遺跡は大野川の支流である茜川の北側に位置する犬飼山の標高70mから80mの所に所在する。

時期 江戸時代

まとめ 調査の結果、岡藩時代の参勤交代道路の石畳があることがわかったが、その他の遺構・遺物については検出されなかった。（中野）

文献：犬飼町教育委員会「下津尾遺跡」『国道10号線犬飼バイパスに伴う埋蔵文化財発掘調査概報』1996年



下津尾遺跡位置図
(地形図『犬飼』使用)



石畳検出状況

130. 市場久保遺跡 (日当遺跡群)

所在地	大野郡野津町大字宮原字市場久保	調査面積	2400㎡
調査原因	宅地造成	担当者	長田 大輔
調査期間	950612～950913	遺跡処置	一部保存
調査主体	野津町教育委員会	台帳番号	540059

位置 野津町の中心部から北に約1,100 m、台地状の地形で頂上には南北に尾根が伸びている。遺跡はその東側の緩斜面に位置し、その先には中山八幡社という神社にぬける道がある。また、西側の斜面は後世の削平を受けており、遺構・遺物は発見できなかった。周辺には日当遺跡や日当西遺跡などの周知遺跡がある。

遺構 尾根に沿って時期不明の溝が2本出土した。また、その南側に高さ約1 mほどの塚状の盛り土があり、その下から中世のものと思われる方形周溝遺構を確認した。

遺物 東側の緩斜面から出土した遺物は装飾品と思われる異形石器を含む縄文時代早期のものがほとんどであり、その他旧石器時代の遺物も出土している。方形周溝遺構からは15～16世紀のものと思われる土師質の灯明皿が出土した。

まとめ 縄文時代早期の遺跡としては町内の他の遺跡と比べ規模が小さく、一時的なキャンプ地であろうと思われる。方形周溝遺構については、出土遺物より中世のものと思われるが具体的な史料は確認できなかった。(長田)



市場久保遺跡位置図
(地形図『大綱』使用)



出土異形石器

131. 土橋遺跡

所在地 大野郡野津町大字福良木字鳥越他
 調査原因 道路建設
 調査期間 951030～951101
 調査主体 野津町教育委員会

調査面積 3900㎡
 担当者 長田 大輔
 遺跡処置 計画通り施工
 台帳番号 540091

概要 遺跡は野津町の中心地から東へ約2.7km、丘陵地の上に広がっている。調査は、道路に沿ってトレンチを2本設定し、遺構・遺物の分布を確認する方法で行った。その結果、遺構・遺物はみられなかった。

これは約10年前に行われた土地改良事業の際に遺跡が破壊されたためであろうと思われる。(長田)



土橋遺跡位置図
 (地形図「大綱」使用)

132. 波津久北遺跡 (西区)

所在地 大野郡野津町大字鳥岳
 調査原因 道路建設
 調査期間 950605～950630
 調査主体 大分県教育委員会

調査面積 400㎡
 担当者 綿貫 俊一
 遺跡処置 計画通り施工
 台帳番号 新発見

概要 国道10号線改良(野津改良)の実施予定に伴い試掘調査を行った。

調査対象地区は野津町西部に位置し、野津川右岸に広がる水田地帯の一角である。あまり大きな改変を受けていないと考えられる水田を、重機により全面的な耕作土を除去する。その後、人力を投入して遺構検出作業とローム層上面における旧石器時代遺物の検出作業を行った。しかし現国道面か2mも低いこともあり、段丘礫層とロームが観察されたことからかなり削られていることがわかった。更に2m×5mのトレンチを4ヶ所行ったが、スクレイパーと剥片が各1個ローム層中から見つかったのみである。(綿貫)



波津久北遺跡位置図
 (地形図「大綱」使用)

133. 持丸原遺跡

所在地	大野郡野津町大字持丸	調査面積	100㎡
調査原因	県営畑整備事業	担当者	後藤 一重
調査期間	950510	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	540075

概要 農道建設に伴う調査対象地区は谷から一部台地にかかる部分である。分布調査の際、中世の土器片などが採集されたため試掘調査を実施した。台地部は尾根状の狭い範囲である。ここでは層厚約20cmの耕作土下がローム層で、遺構は検出されなかった。また、ローム層も作業員による掘り下げを行ったが、旧石器時代の遺物は確認されなかった。谷部は、厚いクロボクの堆積がみられるのみであった。
(後藤)

文献：「大分県内遺跡発掘調査概報」4
大分県教育委員会 1996年



持丸原遺跡位置図
(地形図「大綱」使用)

134. 大迫遺跡

所在地	大野郡千歳村大字長峰	調査面積	2500㎡
調査原因	県営畑整備事業	担当者	村上 久和
調査期間	960318~960327	遺跡処置	一部記録保存
調査主体	千歳村教育委員会	台帳番号	546014

概要 大野川の中流域の丘陵上に位置する。この丘陵は頂部の平坦部が広く、高添遺跡など大規模な弥生時代後期の集落群が広がっている。調査は、丘陵の北側斜面上に5×10mのトレンチを設定して行った。その結果、弥生時代後期の竪穴住居10棟前後、掘立柱建物等を検出した。
竪穴住居跡は路線を変更し保存となった。他の遺構については、次年度本調査予定となった。
(村上)



大迫遺跡位置図
(地形図「田中」使用)

こまがたてらばたけ
135. 駒方寺畑ヶ遺跡

所在地	大野郡大野町大字中原字駒方	調査面積	2400㎡
調査原因	広域農道建設	担当者	後藤 幹彦
調査期間	960117～960209	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	大野町教育委員会	台帳番号	540197

概要 駒方寺畑ヶ遺跡は、大野町中心部よりやや南方にある標高約220mの台地上に立地する。周辺には、駒方C・駒方池迫・駒方津室迫・駒方古屋遺跡等があり、台地上の広範囲にわたって旧石器時代の遺跡が確認されている。試掘対象区は東西方向に長い台地状の畑地であり調査方法としては、調査調査対象区内に7ヶ所のトレンチを設定し掘り下げを行なった。その結果、黒ボク層は完全にその直下のローム層も一部削平を受けており、遺構は全く検出されなかった。また遺物も全く出土しなかった。以上の結果、事業実施については、問題なしと判断した。(後藤)



大野町駒方寺畑ヶ遺跡位置図
(地形図「田中」使用)

さくらのばば
136. 桜馬場遺跡群

所在地	大野郡三重町大字市場字市原	調査面積	6㎡
調査原因	無線基地建設	担当者	諸岡 郁
調査期間	960123～960124	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	三重町教育委員会	台帳番号	541078

概要 町西側の通称市原と呼ばれる台地上にある。無線中継基地建設が予定されたため、試掘調査を行った。2m×1.5mのグリッドを2箇所設定し人力で掘り下げたが、遺構・遺物は全く検出できなかった。そのため本調査は必要なしと判断した。(諸岡)



桜馬場遺跡位置図
(地形図「三重町」使用)

137. ^{しげまさ}重政遺跡群

所在地	大野郡三重町大字内田字重政	調査面積	46㎡
調査原因	学校施設建設	担当者	諸岡 郁
調査期間	950828～950901	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	三重町教育委員会	台帳番号	541063

概要 調査地区は町中心部東側の通称重政原と呼ばれる台地上に位置し、近くに前方後円墳の重政古墳が立地している。当該地は町立三重中学校の敷地内でもあり、ここに学校施設の改築が予定されている。平成7年度は体育館の建設予定地及び古墳周囲の範囲確認の試掘を行った。

トレンチを1本設定し表土剥ぎを行ったが、遺構・遺物は全く検出できず、本調査は必要なしと判断した。古墳周辺でも明確な遺構はみられず、若干の埴輪片を採取したのみである。(諸岡)



重政遺跡位置図
(地形図「三重町」使用)

138. ^{ちやのくほ}茶屋久保遺跡

所在地	大野郡三重町大字赤嶺字大久保	調査面積	10㎡
調査原因	無線基地建設	担当者	諸岡 郁
調査期間	950710～950712	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	三重町教育委員会	台帳番号	541043

概要 通称大原と呼ばれる広大な台地上にあり調査対象地は町中心部を見おろす縁辺にあたる位置である。無線中継基地建設が予定されたため事前に試掘調査を行った。

重機による表土剥ぎの後、人力による発掘を試みたが遺構・遺物は全く検出できなかった。そのため本調査は必要なしと判断した。

(諸岡)



茶屋久保遺跡位置図
(地形図「三重町」使用)

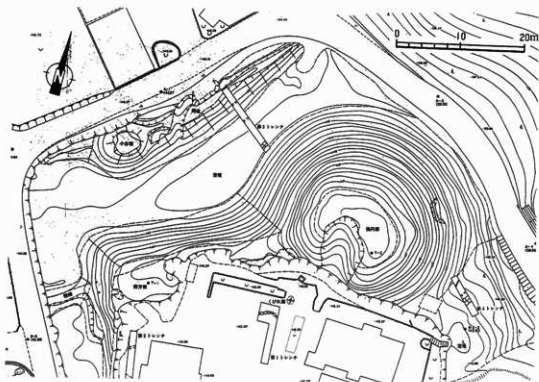
139. 立野古墳

所在地	大野郡三重町大字上田原字立野	調査面積	50㎡
調査原因	主要古墳確認調査	担当者	高橋 徹・田中 裕介
調査期間	960213～960318	遺跡処置	現状保存
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	541007

概要 大野川の本流沿いの丘陵上に位置する前方後円墳である。周囲には古墳時代前中期の石棺を主体部とする古墳が群在上田原古墳群と称されている。大野川流域で埴輪を出土する唯一の古墳として知られていた。その重要性に鑑み、現在県史跡に指定されている。測量調査と範囲確認調査を行った結果、全長63mで柄鏡形の前方部をもち、周溝は馬蹄形で、北側に周堤を残していた。各トレンチで埴輪葺石の根石を確認した。トレンチからは円筒埴輪と壺形埴輪を検出し、古墳時代前期末の築造であることが判明した。(田中)



立野古墳位置図
(地形図「田中」使用)



140. 妙照院跡^{みょうしょういんあと}

所在地	大野郡三重町大字赤嶺字角神	調査面積	76㎡
調査原因	宅地造成	担当者	諸岡 郁
調査期間	960308～960311	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	三重町教育委員会	台帳番号	541051

概要 町東側の広大な台地上の縁辺にあり、町中心部を見おろす崖際にあたる位置である。この付近には妙照院と呼ばれる寺院の存在が伝えられており、宝印塔1基（町指定有形文化財）がある。宅地造成が予定されたので事前に試掘調査を行った。

3箇所にトレンチを設定し重機により表土剥ぎを行い、遺構検出を試みたが遺構・遺物は確認されなかった。そのため本調査は必要なしと判断した。（諸岡）



妙照院跡位置図
(地形図「三重町」使用)

141. 牟礼越遺跡^{むれんこし}

所在地	大野郡三重町大字百枝字牟礼越	調査面積	40㎡
調査原因	宅地造成	担当者	諸岡 郁
調査期間	950824～950903	遺跡処置	次年度継続調査
調査主体	三重町教育委員会	台帳番号	541042

概要 町北部の台地端の丘陵上にあり、調査対象地は南西方向へ下る緩やかな斜面上となっている。土地所有者より宅地造成の予定が持ち上がったため、試掘調査を行った。

重機による表土剥ぎを行ったのち5箇所の調査区を設定し発掘を行った。その結果、旧石器時代から縄文時代早期までの包含層が確認でき、土器・石器等の遺物が出土した。工期を延期し次年度にも継続調査を行うことになった。（諸岡）



牟礼越遺跡位置図
(地形図「三重町」使用)

142. 横田遺跡

所在地 大野郡三重町大字内田字西平他
 調査原因 道路建設
 調査期間 950928～951002
 調査主体 三重町教育委員会

調査面積 36㎡
 担当者 諸岡 郁
 遺跡処置 計画通り施工
 台帳番号 541057

概要 町東側の丘陵麓にあり、三重中央農免道路の建設が予定された。そこは平地側の水田面および山麓側のやや高い西方向に傾斜した微高地と異なる地形となっている。そのため、微高地上と水田上の2箇所の試掘調査を行った。

トレンチを2箇所設定し、重機による表土剥ぎを行った結果、水田上からは遺構・遺物はみられなかった。微高地上からは若干の遺物が出土したものの遺構は確認されなかった。また、土層の状況により遺跡は破壊された状態であったため、本調査は必要なしと判断した。(諸岡)



横田遺跡位置図
 (地形図「三重町」使用)

143. 柿ノ木谷遺跡

所在地 大野郡清川村大字白尾 調査面積 570㎡
 調査原因 道路建設 担当者 高橋信武
 調査期間 950717～950824 遺跡処置 計画通り施工
 調査主体 清川村教育委員会 台帳番号 542022

調査面積 570㎡
 担当者 高橋信武
 遺跡処置 計画通り施工
 台帳番号 542022

概要 奥岳川の左岸段丘上の山林に所在する。丘陵の頂上部を中心に調査を行ったところ、その頂上部を中心に縄文早期の遺跡を確認した。遺物の大部分は礫・礫片であったが、2基の集石遺構の他、石皿・石匙・石鏃や少量の無文土器片が出土した。(高橋)



柿ノ木谷遺跡位置図
 (地形図「三重町」使用)

144. ^{おおいし}大石遺跡

所在地	大野郡緒方町大字大石字大道畑	調査面積	500㎡
調査原因	範囲確認調査	担当者	高野 弘之
調査期間	951227～960308	遺跡処置	現状保存
調査主体	緒方町教育委員会	台帳番号	543064

概要 大石遺跡は、縄文晩期農耕論が提唱された舞台として著名であるが、広範囲に及ぶ遺跡の範囲が明確にされていない。そのため、深耕事業や広域農道開発が遺跡の近接地で実施され、遺跡破壊の危険性が生じている。近年は、他県からの大規模農家が土地を借上げ、大型機械による慢性的な破壊の危機に直面している。そのため、早急に遺跡の範囲確認を行い、遺跡保護の資料とするため試掘調査を実施した。

試掘調査は、未発掘部分に1m×10mのトレンチを入れ、遺物検出面で掘り下げを中止した。遺物は、縄文後期・晩期のものが大部分であり、弥生の遺物はほとんど検出されなかった。

今回の調査で、遺跡の範囲と遺物の集中地点が明確化された。(高野)



大石遺跡位置図
(地形図「小原」使用)

おくだけやき
145. 奥嶽焼窯跡

所在地	大野郡緒方町大字小原字堂ノ内	調査面積	150㎡
調査原因	道路建設	担当者	高野 弘之
調査期間	960313～960329	遺跡処置	現状保存
調査主体	緒方町教育委員会	台帳番号	543085

概要 奥嶽焼窯跡は、平成3年度に所在が確認され、岡藩では小宛焼と並び、2箇所の窯跡が所在することが判明した。

ところが、窯跡直上に町道の建設が予定され急遽範囲確認調査を実施することになった。

試掘は、窯跡と推定される段階状の部分及び物原は避け、周辺地について行った。その結果、窯跡は1箇所とみられ、物原の表面では、素焼の破片、磁器片、ハマ、トチンなどが採取された。

調査結果をもとに町道建設路線が変更され、遺跡の保存を図ることができた。しかし、以前広報「おがた」に奥嶽焼窯跡発見の記事を載せたにもかかわらず、窯跡直上に町道路線が計画されるということは、文化財保護思想の啓発がいかにお粗末であったか思い知らされる出来事であった。 (高野)



奥嶽焼窯跡位置図
(地形図「小原」使用)

146. ^{しもの}下野遺跡

所在地	大野郡朝地町大字下野	調査面積	975㎡
調査原因	県営圃場整備事業	担当者	村上 久和
調査期間	960122～960219	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	朝地町教育委員会	台帳番号	544093

位置 下野遺跡のある下野地区は大野川の支流である平井川の南に位置する地域である。

平井川を挟んで北側に横穴墓、南側には墳丘墓が集中している。

平井川の南側に平行に走っている丘陵には参勤交代道路が通っており、当時を偲ばせる石塔類が数多く見られる。

平井川の南側での発掘調査は今回が初めてである。



下野遺跡位置図
(地形図「朝地町」使用)

遺構 弥生時代の水田跡とそれに伴う水路。古墳時代の住居跡、それに伴うカマド2基。中世の井戸。

遺物 五徳に転用された古墳時代カメ。須恵器破片。

まとめ 1軒の住居跡から2基のカマドが見つかった。土層図からカマドの設置年代の前後関係が確認できた。(村上)



下野遺跡2住居跡

文献：宮内克巳・後藤一重『田村遺跡・池在遺跡・古市遺跡・市万田遺跡』1994年 朝地町教育委員会

147. 鳥屋遺跡

所在地	大野郡朝地町大字	調査面積	80㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	江田 豊
調査期間	950728～950811	遺跡処置	工事変更により保存
調査主体	朝地町教育委員会	台帳番号	544009

概要 町道改良工事に伴う事前の確認調査で、数本のトレンチを入れたところ、鳥屋遺跡の周辺部で、縄文早期の集石遺構及び早期押型文土器、黒曜石の製品、剥片類が出土した。遺跡の範囲が広がることが考えられたため、この部分の町道建設については設計変更等の協議を行い大部分を保存することとなった。

(江田)

鳥屋遺跡位置図
(地形図「朝地」使用)

148. 市第Ⅱ遺跡

所在地	直入郡久住町大字仏原	調査面積	2000㎡
調査原因	県営圃場整備事業	担当者	高橋信武
調査期間	951218～960311	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	久住町教育委員会	台帳番号	新発見

概要 宮処野神社の南東に位置し丘陵の南斜面に立地する。現状は2～3段の水田となり元地形が切り盛りされた結果である。奈良時代の竪穴住居跡3基、中世の掘立柱建物跡1棟以上、近世の掘立柱建物跡群・溝状遺構を検出した。その他、弥生時代の遺物が出土したが遺構はなかった。

(高橋)

市第Ⅱ遺跡位置図
(地形図「久住」使用)

149. ^{いたきり}板切遺跡群

所在地	直入郡久住町大字有氏字板切	調査面積	11000㎡
調査原因	県営園地整備事業	担当者	宮内 克己・渡部 桂司
調査期間	951115～960322	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	久住町教育委員会	台帳番号	新発見

位置 大船山(1787m)の南東山麓、標高650～680m余りの尾根上に本遺跡群は位置する。その一帯は、小規模な丘陵とこれを隔てる谷が複雑に入り込み、起伏に富む地形となる。

西から板切第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳの順に遺跡が展開するが、第Ⅴ遺跡の最も規模が大きい。

遺構 第Ⅰ遺跡からは中世と考えられる掘立柱建物(2×3間)1棟が検出されたのみである。

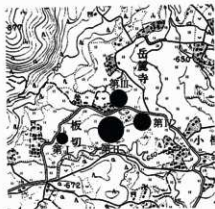
第Ⅱ遺跡では、全長約180m、最大幅約70m余りの舌状丘陵部から弥生時代終末～古墳時代前期の住居跡等の竪穴遺構46基を中心に、土坑・柱穴や中世の用水路と考えられる溝等の遺構が検出された。

第Ⅲ遺跡からは、第Ⅱ遺跡とほぼ同時期の住居跡4基、土坑・柱穴、中世の溝2条と弥生時代中期～後期の包含層が発見された。

第Ⅳ遺跡では、住居跡4基と土坑1のほか若干の柱穴が存在したにすぎない。

遺物 第Ⅰ遺跡を除き住居跡等の竪穴遺構からは弥生時代終末から古墳時代前期中頃の各時期の土器を始めに鎌・刀子・手鎌等鉄器、磨石や石皿等の石器などが出土している。また、第Ⅲ遺跡の包含層からは黒髪式などの肥後系土器も多数見られる。

まとめ 板切遺跡群は当該期の集落遺跡としては現在最も標高の高い位置にあり、中核的存在の第Ⅱ遺跡(46基)とその分村の小集落と考え



板切遺跡群(Ⅰ～Ⅳ)位置図
(地形図「J」使用)



られる第Ⅲ・Ⅳ遺跡（4基）がセットになるものでこの時期の集落構造を示す好例となろう。

また、下城式土器等の存在は水稻耕作の限界地域における遺跡の進出時期の早さとその後の比較的安定した継続性を物語るが、一方ではその限界をも示している。 (宮内)

150. ^{おくび}尾首遺跡

所在地	直入郡久住町大字仏原	調査面積	2100㎡
調査原因	県営圃場整備事業	担当者	高橋 信武
調査期間	951116～951228	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	久住町教育委員会	台帳番号	新発見

概要 県道庄内久住線の北、宮処野神社の南に位置する。東方に延びた丘陵の谷頭部に立地し、調査区は東北方向に傾斜している。竪穴住居跡2基、掘立柱建物跡6基、土坑等の遺構・墨書土器・塩壺等の遺物が出土した。竪穴住居跡は奈良時代に属すが、掘立柱建物跡は中世のものが多いようである。 (高橋)



尾首遺跡位置図
(地形図「久住」使用)

おほらだ
151. 小原田遺跡

所在地	直入郡久住町大字有氏	調査面積	1260㎡
調査原因	県営園場整備事業	担当者	高橋 信武
調査期間	951116～951222	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	久住町教育委員会	台帳番号	新発見

概要 丘陵の縁辺部を調査した。中世（室町時代頃）の掘立柱建物跡3棟を検出した。2棟はほぼ同じ規模の大型の南北方向に長い建物跡で、一部重複している。残る1棟はやや離れた位置に前者とほぼ同一方位をもつ小型建物跡である。

以上の3棟は近接した場所にあり同一方位であること、周辺に他の建物群が分布しないこと等から、ある1家族の住宅地だったと考えられる。
(高橋)



小原田遺跡位置図
(地形図「久住」使用)

おつばる
152. 仏原第I遺跡

所在地	直入郡久住町大字仏原	調査面積	830㎡
調査原因	県営園場整備事業	担当者	高橋 信武
調査期間	951108～960311	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	久住町教育委員会	台帳番号	新発見

概要 南北方向に長い調査区で、地形的には西側に広がる平坦地が終わり、東側の斜面に移行しかかる場所にある。柱穴若干を検出し、掘立柱建物跡2棟を復元できた。他に柱列が崩壊をなすものもある。このほか、溝状遺構1・直径1m程度の土坑群を検出した。1基の土坑から中世末頃の土師質土器皿が出土しており、本遺跡の所属時期の一端を押さえることができた。
(高橋)



仏原第I遺跡位置図
(地形図「久住」使用)

153. 仏原第Ⅱ遺跡

所在地	直入郡久住町大字仏原	調査面積	560㎡
調査原因	県営圃場整備事業	担当者	高橋 信武
調査期間	951109～960311	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	久住町教育委員会	台帳番号	新発見

概要 丘陵の南東斜面に位置する1枚の水田を調査した。丘陵の伸びる方向と並行して走る溝状遺構1条と掘立柱建物跡の柱穴多数を検出した。溝の内部、西側の高い方は深さ1～2m・径1.5m前後の穴が5個連続した形になり、内部下半に砂が堆積していた。平安時代の遺物が出土した。建物は3・4棟復元できそうである。
(高橋)



仏原第Ⅱ遺跡位置図
(地形図「久住」使用)

あないごこ
154. 穴井迫第2遺跡

所在地 竹田市大字穴井迫
調査原因 道路拡幅
調査期間 951108～960116
調査主体 竹田市教育委員会

調査面積 3000㎡
担当者 城戸 誠・真田 博幸
遺跡処置 計画通り施工予定
台帳番号 新発見

位置 穴井迫第2遺跡は、竹田市の西部に広がる菅生台地の裾部にあたる。その地形は、台地から傾斜する丘陵地であり、その大半が山林となっている。

遺構 今回の調査では、土坑が5基検出された。これらの土坑の時代判定は極めて難しいが、土坑内の覆土から明らかに菅生台地にみられる縄文、弥生のもとは異なりこれ以後の時代のものと思われる。

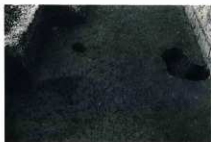
遺物 遺物としては、縄文時代後、晩期と思われる石鏃、縄文晩期の土器が出土している。

まとめ 穴井迫地区周辺における発掘調査は過去に行われておらず、穴井迫第2遺跡の性格を考える上での資料は極めて少ない。しかし、穴井迫周辺には中世から近世にかけての遺跡が多く周知されている。玉来川に面した平野部には、中世の村の存在が考えられ、丘陵部には中世の城跡が点在している。これらの周辺の中世的環境を考慮すれば、穴井迫地区においても中世から近世に関連する遺跡となる可能性があると思われる。(城戸)

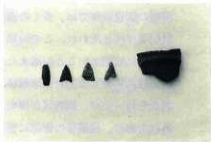
文献：『戸上遺跡・穴井迫第2遺跡』竹田市教育委員会 1996年



穴井迫第2遺跡位置図
(地形図「桜町」使用)



穴井迫第2遺跡検出状況



穴井迫第2遺跡出土遺物

155. 喜多村家屋敷跡

所在地 竹田市大字竹田
 調査原因 道路建設
 調査期間 950401～960316
 調査主体 大分県教育委員会・竹田市教育委員会

調査面積 2300㎡
 担当者 玉永 光洋・城戸 誠
 遺跡処置 計画通り施工
 台帳番号 新発見

位置 喜多村家屋敷跡は史跡岡城跡の南側を流れる白滝川左岸丘陵部に位置する江戸時代の武家屋敷跡である。喜多村家は、石高65俵4人扶持であり、役職は中小姓、御馬役であった。

遺構 調査は、喜多村家屋敷跡のほぼ全域に及んだ。確認された主な遺構は、柱穴群、土坑、排水溝、水溜状遺構、石垣等であり、年代もほぼ江戸時代後期と思われる。

遺物 遺物は17世紀後半から19世紀前半にかけての陶磁器類が数多く出土した。その他にも、銅銭、銅鏡等の銅製品も出土した。

まとめ 喜多村家屋敷跡の発掘調査は、平成7年度から調査を実施し、平成8年度で終了予定である。この調査成果については、現在整理作業を進めつつある段階であり、明確にはしがたい状況であるが、概ね、整地層等の層位から3乃至4時期が窺える。これらの層位からなる遺構と遺物の検討が今後残されている。現場の調査段階では、多くの遺構の時期は18世紀後半代と思われる、この時期の遺構の残存状態が比較的良好なことが窺えた。また、喜多村屋敷に隣接する飯野家屋敷跡についても、調査を行ったが、調査区が屋敷地中心部から外れており、遺構等の確認に留まった。

(玉永)



喜多村家屋敷跡位置図
(地形図「竹田」使用)



喜多村家屋敷跡遺構検出状況



飯野家屋敷跡全景

しざんしゃせいしこうじょうあと
156. 四山社製糸工場跡

所在地	竹田市大字竹田	調査面積	660㎡
調査原因	病院建設	担当者	城戸 誠・真田 博幸
調査期間	950801～950929	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	竹田市教育委員会	台帳番号	539085

位置 四山社製糸工場は、竹田市浦町に所在する。ここは、市街地の北側を占め、稲葉川の河川沿いに位置している。現在の浦町付近は、住宅地であり、豊後竹田駅に近く商店街として賑わう古町通りに接している。

遺構 今回の調査で検出された主な遺構は、製糸工場に関連するものとして、溝状遺構と煙道状遺構が出された。溝状遺構はほぼ床面のみ検出され、部分的に側面の立上りが確認された。床面から側面にかけては赤褐色の三和土で覆われていたようである。このほかに、江戸時代末以降のものと思われる礎石遺構、石垣、井戸状遺構と明治時代以降の土坑が検出された。

遺物 遺構及びその周辺から、多くの磁器・陶磁器類が出土した。四山社製糸工場跡の特徴的遺物としては、煮糰釜（鍋）と呼ばれるものが出土している。

まとめ 四山社製糸工場は明治14年（1881）に士族授産会社である「四山社」として設立され、明治37年（1904）に倒産し、その後直入製糸場に受け継がれた。今回の調査においては、溝状遺構、煙道状遺構、土坑等の製糸工場に関連すると思われる遺構が検出されたが、存在していた施設に関連付けるには及ばなかった。また、平成4年及び平成5年の調査時にも施設が一部を検出されている。その他にも文献資料からは、多くの施設が存在していたことが知られるが、現状での発掘調査からはその施設内容の多くを知ることはできない。（城戸）



四山社製糸工場跡位置図
(地形図「竹田」使用)



四山社跡溝状遺構検出状況



煮糰釜「四山社」銘入り

文 献：『四山社製糸工場跡発掘調査報告書』竹田市教育委員会
1995年

157. 史跡岡城跡

所在地	竹田市大字竹田	調査面積	700㎡
調査原因	保存修理	担当者	佐伯 治
調査期間	950701～960331	遺跡処置	調査後整備予定
調査主体	竹田市教育委員会	台帳番号	539088

位置 本年度は、遺構整備の事前調査を目的として、平成5年度から着手している中川覚左エ門屋敷跡において第3次発掘調査を実施した。

遺構 中川覚左エ門屋敷跡では、建物跡、門跡、井戸跡、土塀跡等が昨年度までに検出された。本年度の調査で新たに建物(蔵)跡、土坑、三和によるタタキを施した水溜め状遺構、石積みによる方形のプランをしたカギ状遺構、通路等の遺構が検出された。

遺物 今回の調査で、中川覚左エ門屋敷跡から、陶磁器類(18C～19C肥前及び肥前系)・金属製品(鉄製釘・銅銭・青銅製品等)・瓦等が遺構に伴い出土した。

まとめ 中川覚左エ門屋敷跡の整備を目的とした事前発掘調査は、遺構の遺存状況も良好で、廃城当時の建物遺構、門跡、排水施設等が検出されたことは、保存整備を実施するために貴重な資料となった。なお、平成8年度には第4次発掘調査が行われる予定である。(佐伯)



史跡岡城跡位置図
(地形図「竹田」使用)



中川覚左エ門屋敷発掘状況

文献：『史跡岡城跡X』竹田市教育委員会 1996年

158. ^{とうえ}戸上遺跡

所在地	竹田市大字戸上	調査面積	800㎡
調査原因	道路拡幅	担当者	城戸 誠・真田 博幸
調査期間	951020～951130	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	竹田市教育委員会	台帳番号	539062

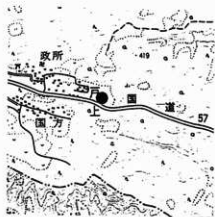
位置 この遺跡は、竹田市の西部、熊本県境に広がる火山性台地である菅生台地の東端に位置する。菅生台地は、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけて大集落が形成されていた。

遺構 今回の調査の結果、柱穴群、溝状遺構、土坑等の遺構が検出されたが、出土遺物が乏しく遺構の時期判定には至らなかった。しかし、昨年度及び一昨年度の調査では、主に近世の成果が得られている。

遺物 出土遺物としては、陶磁器類がわずかに出土した。

まとめ 菅生台地を中心とする近世については、その生活状況を示す資料は極めて少ない。平成5年度からの調査の成果として、農家の建物跡、道跡、墓地等が検出された。これらの成果は、近世の村の存在要素を示すものとして、従来行われてきた菅生台地周辺地域の調査の成果とは異なる新しい時代の成果であり、注目される。竹田市での近年の発掘調査は、主に岡城跡及びこの周辺地域に存在した武家屋敷といった近世の武士の生活遺跡で多く行われている。これに対して、今回調査を行ってきた戸上遺跡のように農村の生活状況を示す調査が加わったことにより、近世の竹田を知る幅の広い成果につながる事が期待される。

(城戸)



戸上遺跡位置図
(地形図「桜町」使用)



戸上遺跡遺構検出状況

なかがわうまのすげやしきぐん

159. 中川午之助屋敷群

所在地	竹田市大字芝原	調査面積	1720㎡
調査原因	道路建設	担当者	城戸 誠・真田 博幸
調査期間	960117～960305	遺跡処置	次年度継続調査
調査主体	竹田市教育委員会	台帳番号	539098

概要 中川午之助屋敷群は、岡城の南西に位置している。岡城が立地する同一丘陵に存在している。この丘陵の白滝川に向かう小谷には、数多くの武家屋敷が存在している。今回、調査を実施した屋敷跡は周辺に所在していた中川午之助（当時、家老職）の下屋敷に関連する屋敷と思われる。この下屋敷に隣接するように存在する屋敷群を中川午之助屋敷群と呼称している。今回の調査では、石列による屋敷区画や屋敷地への入口と思われる石垣等が確認できた。
(城戸)

文献：『竹田地区南部遺跡群Ⅴ・史跡岡城跡周辺遺跡群Ⅱ』
竹田市教育委員会 1995年



中川午之助屋敷位置図
(地形図「竹田」使用)

160. 野口遺跡

所在地	竹田市大字中角	調査面積	2000㎡
調査原因	道路建設	担当者	城戸 誠
調査期間	951003～951102	遺跡処置	計画通り施工予定
調査主体	竹田市教育委員会	台帳番号	539125

概要 野口遺跡は、南に祖母嶺山系を望む、小規模な火山性台地が散在する起伏の激しい山間の標高約500mの台地上に位置する。この遺跡は、竹田南部地区において展開する弥生時代中期後半～古墳時代初頭の集落遺跡である辻原遺跡、田井原遺跡、太田原遺跡等と同様な遺跡として注目される遺跡である。今回の調査は、遺跡の中心をなすと思われる台地の平坦部を外れていたため、遺構を確認することが出来なかったが、大野川上流域に展開する集落遺跡の集落形成が注目されており、この一端を担う遺跡である野口遺跡の調査は、今後、大いに期待されるところである。
(城戸)

文献：『史跡岡城周辺遺跡群・竹田地区南部遺跡群Ⅵ』
竹田市教育委員会 1996年



野口遺跡位置図
(地形図「豊後柏原」使用)

のとのけやしきあと
161. 野殿家屋敷跡

所在地	竹田市大字芝原	調査面積	1600㎡
調査原因	道路建設	担当者	城戸 誠・真田 博幸
調査期間	960117～960305	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	竹田市教育委員会	台帳番号	539098

概要 野殿家屋敷跡は、岡城東南に位置する大手口へ通じる主要幹線道路沿いに所在する。野殿家は、文献資料によると石高230石で高身役、御近習物頭、元占役の役職にあったことがわかる。

調査は、5本のトレンチを設けて行い、江戸時代のものと思われる河原石等の建物遺構や、板状の石を並べた石敷遺構、手水鉢、土坑等が検出された。また、多くの陶磁器類が出土した。



野殿家屋敷跡位置図
(地形図「竹田」使用)

文献：『竹田地区南部遺跡群Ⅴ・史跡岡城跡周辺遺跡群Ⅱ』
竹田市教育委員会 1995年

てらのまえ
162. 寺ノ前遺跡

所在地	直入郡荻町大字新藤1128他	調査面積	32000㎡
調査原因	農業構造改善事業	担当者	橋本 幸治
調査期間	951121～960116	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	荻町教育委員会	台帳番号	548029

位置 寺ノ前遺跡は、阿蘇外輪山に起因する「葎原台地」と呼ばれる火山性台地を東流している藤渡川の南側に位置する。

遺構 調査地点は昭和55年の調査地点に隣接した場所である。縄文時代早期と思われる熱により赤変した拳大の礫を使用した、集石遺構1基と、縄文時代晩期粗製深鉢の埋壘と思われる遺構1基の他、縄文時代早期・前期・晩期の包含層が検出された。

遺物 姫島産黒曜石製の打製石鏃・横型の打製石匙数点、縄文時代早期・前期・晩期、各時期の土器片が少量出土した。

まとめ 今回の調査により、昭和55年調査の寺ノ前遺跡の遺跡範囲がさらに西側へと拡がって続くことが想定され、本遺跡の規模、継続時期を考慮出来得る資料が得られた。（橋本）

文献：「葎台地の遺跡」荻町教育委員会 1983年



寺ノ前遺跡位置図
(地形図「荻町」使用)

ちやのもと かみうしろご
163. 茶屋ノ元・上後迫遺跡

所在地	直入郡荻町大字桑木	調査面積	2000㎡
調査原因	道路建設	担当者	後藤 一重
調査期間	951204～960118	遺跡処置	計画通り施工予定
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	548085

概要 遺跡は荻町西部の標高約600mの台地上に立地する。農道の工事予定地のうち、台地斜面部をのぞく大部分に調査区を設定した。その結果、台地中央部で弥生時代の遺構が確認された。しかし、その密度は低く、長さ300mのトレンチにおいて住居跡1基、溝1本が確認されたのみである。このほか、縄文時代包含層確認のための調査区を設けたが、遺構・遺物は確認されなかった。(後藤)



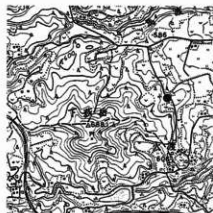
茶屋ノ元・上後迫遺跡位置図
(地形図「荻町」使用)

文献：『大分県内遺跡発掘調査概報』4 大分県教育委員会 1996年

ひわたし
164. 火渡地区

所在地	直入郡荻町大字藤波	調査面積	100㎡
調査原因	大野川上流水利事業	担当者	後藤 一重
調査期間	951127～951130	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	

概要 調査は水路管理設に伴うもので全長約800mに及ぶ。その大部分は下荻岳の斜面で、平坦部を中心に調査区を設定した。重機により表土を除去し遺構の検出につとめたが、遺構はまったく確認されなかった。さらに、縄文時代包含層確認のため作業員による掘り下げも行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。この周辺は遺跡の密集地区であるが、以上のような状況から計画通り工事をすすめた。(後藤)



火渡地区位置図
(地形図「荻町」使用)

文献：『大分県内遺跡発掘調査概報』4 大分県教育委員会 1996年

165. 山ノ神谷遺跡 (B地区)

所在地	直入郡荻町大字桑木字矢所350	調査面積	1800㎡
調査原因	道路建設	担当者	橋本 幸治
調査期間	950425～950723	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	荻町教育委員会	台帳番号	548088

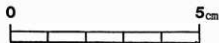
位置 山ノ神谷遺跡群は、阿蘇外輪山東麓から派生した「柏原台地」と通称される標高約600mの火山性台地上に立地しており、中山川を挟んで東側の台地上には中山遺跡が所在している。



山ノ神谷遺跡 (B地区) 位置図
(地形図「豊後柏原」使用)

遺構 調査地点は台地の先端にあたり、弥生時代中期末、後期初頭～終末期に比定されると思われる5基の竪穴住居跡を検出した。また、この下層には縄文時代の包含層が存在している。

遺物 遺物としては、竪穴住居跡覆土中から豊後土器編年Ⅱ～Ⅲ期に属し、弥生時代後期中葉新段階～後葉に比定されている工字状突帯文土器が1～5号住居跡のいずれからも出土し、また拂描波状文を施した複合口縁壺や断面三角形の突帯をもつ壺形土器、さらに廃土中より後漢代の内向花文鏡が出土しており、注目されるものである。下層の縄文包含層からは縄文時代早期の墓ノ神式土器、前期の竊土が出土した。

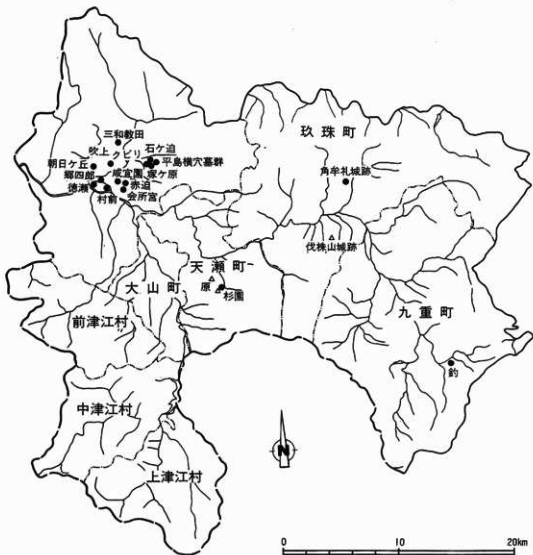


内行花文鏡拓影

まとめ 山ノ神谷遺跡からは前述のように後漢代の内行花文鏡の破砕鏡片が出土した。これは荻町初の出土であり、弥生時代後期後半～終末期の当該地域の首長層を考えるうえで貴重な発見と言える。(橋本)

日田・玖珠地域

- 本調査
- ▲測量・実測・分布調査
- 試掘調査→遺構確認
- △試掘調査→遺構なし



166. 釣^{つる}遺跡

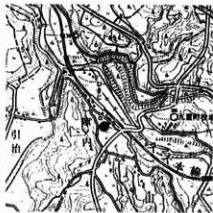
所在地	玖珠郡九重町大字町田字釣	調査面積	200㎡
調査原因	道路建設	担当者	竹野孝一郎
調査期間	960110～960229	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	九重町教育委員会	台帳番号	新発見

位置 釣遺跡は、大分県玖珠郡九重町大字町田字釣に所在する。釣遺跡の南側は、標高770 m小倉岳から延びる尾根によって遮られ、東側は玖珠川によって隔てられる。調査区の現状は、旧水田面を盛土により埋め立て貯木場として利用されている。遺跡の立地する釣周辺は、古くは玖珠川の河原であったものと思われる。

遺構 本遺跡は、水田造築によって既に破壊されていたが、出土した土器構成や石器などから、かつて良好な縄文時代晩期の拠点集落があったことが予想される。

遺物 調査の結果、縄文土器片・石器・近現代陶磁器片など約300点が発見された。縄文土器片は、刻目突帯文土器およびそれに伴う浅鉢・壺などであった。石器は偏平打製石斧・石鏃・石製装身具などであった。また、須恵器片や平石にベンガラと思われる色素が付着した石材が検出された。

まとめ 調査の結果、縄文時代・古墳時代などの土器片や須恵器・石器などが出土したが、それに伴う遺構は検出されなかった。調査区の土層は9層からなり、I層は7～8年前の整地層、II～VII層は水田造築による整地層、IX層は旧河原面である。近世以降に本来の土層を全面除去した後、水田化したものと思われ、遺物はこの整地層のVII～VIII層と旧河原面であるIX層から検出された。(竹野)



釣遺跡位置図
(地形図「豊後中村」使用)

167. ^{つむれじょうあと}角牟礼城跡

所在地	玖珠郡玖珠町大字森字角埋山	調査面積	600㎡
調査原因	重要遺跡確認調査	担当者	佐藤 祐二
調査期間	950701～960331	遺跡処置	保存整備予定
調査主体	玖珠町教育委員会	台帳番号	652043

位置 角牟礼城は、玖珠盆地の中央を流れる玖珠川の支流の一つである森川の西部に位置する角埋山に所在する。角埋山は標高577mで盆地との標高差は約240mある。玖珠盆地を挟んで伐株山城跡と対称的な位置にあり、中世から山城として営まれていた。

遺構 調査は、二の丸曲輪（伝）を中心に5ヶ所のトレンチを配して遺構の確認を行った。その結果、二の丸曲輪南側奥より約10m×約7mで5間×3間の礎石建物跡が出土した。礎石は約50～60cm程度のもので、櫓門跡の石材と同質のものと思われる。整然と南向きに立てている。また、櫓門跡より二の丸に入ると約1mほどの段差がある。トレンチを設定したところ、二の丸に入る虎口を検出した。幅約2mほどの平入り虎口で両方に石垣を設けている。その虎口の左側の石垣では、立石を使った隅部を造っている。二の丸全体を囲むように石垣を構築している。

遺物 遺物は、土師器数片で、礎石建物跡からはまったくない。

まとめ 角牟礼城跡のなかで本格的な礎石建物跡である。規模から二の丸の主郭的な建物と思われる。遺物がないため、どのようなものかは今後の調査の課題である。（佐藤）



角牟礼城跡位置図
（地形図「豊後森」使用）



二の丸礎石建物跡

168. 伐株山城跡

所在地	玖珠郡玖珠町大字山田字万年山	調査面積	120㎡
調査原因	公衆便所建設	担当者	佐藤 祐二
調査期間	951212～951221	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	玖珠町教育委員会	台帳番号	652078

概要 建設予定地は、中世の山城である伐株山城跡の第1土塁遺構の南側平坦部であり、現在の位置に建築するためできる限りの試掘調査を行った。その結果、遺物は表土中より土師器片、火鉢口縁部片、火鉢底部片が出土したが、遺構は検出されなかった。そのため、本調査は必要なしと判断した。(佐藤)



伐株山城跡位置図
(地形図「豊後森」使用)

169. 原遺跡

所在地	玖珠郡天瀬町大字桜竹字原	調査面積	8㎡
調査原因	学術調査	担当者	橋 昌信
調査期間	960324～960326	遺跡処置	現状保存
調査主体	別府大学	台帳番号	

位置 天瀬町市街地中心から南西へ約2キロの標高約380メートル台地の南端に位置している。周辺でナイフ形石器・台形石器など後期旧石器文化石器類が採集されている。

台地の最高所地点近くに2×2メートルの試掘ピットを2箇所設けるが、出土遺物は弥生時代の土器片1点、流紋岩製剥片・碎片各1点のみで、包含層は確認されなかった。(橋)



原遺跡位置図
(地形図「杖立」使用)

文献：橋昌信「天瀬町原遺跡の試掘調査」別府大学付属博物館 だより№41 1996年6月

170. ^{すびその}杉園遺跡（第1次調査）

所在地	玖珠郡天瀬町大字五馬市字杉ソノ	調査面積	1500㎡
調査原因	農地開発利用促進事業	担当者	今田 秀樹
調査期間	950724～960329	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	天瀬町教育委員会	台帳番号	658011

位置 遺跡は五馬台地を形成する一つの舌状に延びた標高380～400mの台地の南の付け根側に位置している。なお、同一台地の60m北側には1993年度から94年度にかけて調査した中尾原遺跡が展開していた。

遺構 遺構としては、弥生時代終末から古墳時代初頭の時期と思われる竪穴式住居跡（方形）2軒、陥し穴状遺構11基などが挙げられるが、今回の調査の中心となったのは旧石器時代の層位的に異なる2つの遺物集中区であろう。

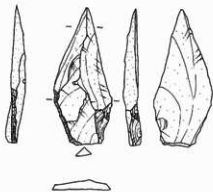
遺物 旧石器時代…石核、剥片、ナイフ形石器、ブランディングチップ、台形様石器、三稜尖頭器など約2,700点（石材は、99%以上が小国産黒曜石である）。その他には、竪穴式住居跡から土器片が少々確認された程度である。

まとめ 今回の第1次調査地点は、前年度に試掘調査を行った開発予定範囲の北西側の台地の端の部分にあたる。遺跡自体は、近代以降の耕作及び造成等によりかなり削平されていた。そのため、2軒の竪穴式住居跡の内1軒は辛うじて床面を残すのみであった。もう1軒は、最大部分で8.9m×7.3mほどのかなり大きな4本柱のもので、その柱穴のすべてが住居跡の埋没前に掘り広げられており、周囲にはその掘削土が残されていた。また、内1つには掘削具（鋤？）によるものと思われる痕跡が残されていた。近年県内外では、このような確認例が増加しており、柱の抜き取り痕という解釈がなされている。いずれにしても、当時の住居の構造はもとより、その廃棄及び移転を考える上でも良好な史料となろう。さて、今回調査の中心となったものに、旧石器時代の2つの文化層からの出土遺物がある。第1



杉園遺跡位置図
(地形図「杖立」使用)

文化層は、黒色帯の上のローム下部から黒色帯上部にかけて石器の集中区が認められ、その層位及び石器の形態から、A T直上の時期が考えられる。第2文化層は、黒色帯の最下部からその下のロームの上部にかけて集中区が認められた。他に、攪乱部分などからこれより新しいものも確認できた。以上のことから、この台地が旧石器時代においても継続して利用されていたことが窺える。また、2つの文化層とも筑後川上流域では、初めて確認された時期のものであり、今後該地域の編年作業を行うにあたって重要な資料になろう。(今田)



杉園遺跡出土ナイフ形石器 (1/2)

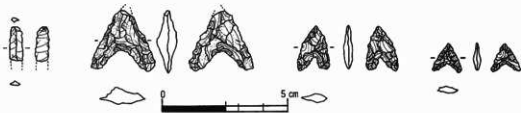
171. 杉園遺跡 (谷部)

所在地 玖珠郡天瀬町大字五馬市字杉ノ
調査原因 農地開発利用促進事業
調査期間 950720～950721
調査主体 天瀬町教育委員会

調査面積 5725㎡
担当者 今田 秀樹
遺跡処置 計画通り施工
台帳番号 658011

概要 今回の試掘調査地点は、杉ノ遺跡第1次調査区の西側の谷部に位置している。

試掘は、開発が予定されている範囲の内に約10本のトレンチを設定して行った。その結果、開元通寶1枚、石鏃3点、細石刃1点や若干の土器片の出土をみたが、遺構や良好な包含層等は確認できなかった。このことなどから、それらの遺物は、いずれも周辺からの流れ込みと考えられる。以上の結果、当地点における事業実施については問題なしと判断した。(今田)

杉園遺跡 (谷部) 位置図
(地形図「杖立」使用)

杉園遺跡 (谷部) 出土石器 (2/3)

あさひがおか
172. 朝日ヶ丘遺跡

所在地	日田市大字朝日ヶ丘	調査面積	2000㎡
調査原因	県営住宅建設	担当者	吉田 博嗣
調査期間	950829～960109	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	新発見

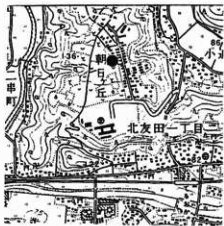
位置 遺跡は、標高約135mの台地上に位置する。台地は、北側に小迫横穴群、南側に片山遺跡(弥生時代)、東側に森本遺跡(弥生・古墳時代)を有しており、小迫辻原遺跡の台地を東に望むことができる。

遺構 縄文時代：包含層
 陥し穴数基
 柱穴、土坑
 弥生時代：柱穴、土坑

遺物 縄文・弥生土器、石鏃、打製石斧

まとめ 調査区北側は、後世の削平を受けており遺構、遺物の発見はなかったが、南側には包含層が厚く覆い、多数の柱穴、土坑を検出することができた。また、包含層下より陥し穴が発見されたが、日田盆地では初例である。

(吉田)



朝日ヶ丘遺跡位置図
(地形図「日田」使用)

ありたつかがほら
173. 有田塚ヶ原遺跡

所在地	日田市大字東有田塚ヶ原	調査面積	13000㎡
調査原因	ウッドコンビナート建設	担当者	行時 志郎・森山敬一郎
調査期間	9602～9603	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651178

位置 遺跡は、平島横穴墓群や石ヶ迫遺跡を見下ろす丘陵上にある。

遺構 縄文時代の土坑約30基と奈良時代の掘立柱建物群5棟が発見された。縄文時代の土坑は、掘方が隅丸長方形のプランを呈し、底面には1～3か所の小さなピットも存在することから落し穴と考えられる。奈良時代の建物については、4棟が方向を同じくして、まとまって建てられている。

遺物 縄文時代の土坑からは、土器の小破片や黒曜石の剥片などの遺物が数点出土している。奈良時代の建物跡柱穴からは、高台付須恵器坏身が1点出土している。

まとめ 谷につくられた石ヶ迫遺跡やクビリ遺跡の集落との関係が注目される。(行時・森山)



有田塚ヶ原遺跡位置図
(地形図「日田」使用)



有田塚ヶ原遺跡掘立柱建物群検出状況

いしがさこ
174. 石ヶ迫遺跡

所在地	日田市大字東有田字石ヶ迫	調査面積	13000㎡
調査原因	ウッドコンビナート建設	担当者	松下 桂子
調査期間	9508～9603	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	新発見

位置 日田盆地東部、有田川沿いに広がる沖積地から南部の丘陵に入りこむ谷に位置する。谷は水田として利用されており、北側斜面は畑地・栗林である。この谷の最奥部は平島横穴墓群、また南に伸びる小谷にはクビリ遺跡、南の丘陵上には塚ヶ原遺跡、西の丘陵上には砥園原遺跡がある。

遺構 谷の入り口をA地点、奥部をB地点とした。
A地点…奈良時代／溝状遺構3、奈良～近代／水田跡
B地点…縄文時代早期／集石遺構5基
古墳時代中期／竪穴住居1基
奈良～平安時代／総柱建物6軒、
掘立柱建物8軒、竪穴住居8基
奈良～近代／水田跡

遺物 A地点…奈良時代／須恵器、土師器
B地点…縄文時代早期／押型文土器（楕円文）、無文土器、石鏃など
古墳時代中期／土師器（小型丸底壺など）
奈良～平安時代／土師器（甕、壺、皿など）

まとめ 谷の北側斜面に総柱建物・掘立柱建物・竪穴住居からなる集落と、その眼下に広がる水田跡が確認され、水田の最下層と集落との時期が一致したことから、石ヶ迫集落は奈良時代における谷部の水田開発の拠点であったと考えられる。この谷の入口にある平島遺跡が古墳時代の集落であることを考慮すると、この地域では古墳時代に有田川周辺の沖積地が開発され、奈良時代になるとより多くの耕作地を求めて谷部に進入してきたものと思われる。また、縄文時代早期の集石遺構について



石ヶ迫遺跡位置図
(地形図「日田」使用)

は、5基ともに構成する石が拳大～人頭大であること、熱を受けてかなり赤変していること、集石下に土坑を有しないことなど共通性が見られ、食物の調理に使用されたと考えられる。特に4号集石遺構は残存状況が良好で、遺構を切り取って保存処理を行った。市内では盆地西部の長者原遺跡で同時期の同様な集石遺構が1基確認されている。（松下）



石ヶ追遺跡B地点全景



石ヶ追遺跡B地点4号集石遺構

かんぽえんあと
175. 咸宜園跡

所在地	日田市大字南豆田字中城	調査面積	400㎡
調査原因	史跡整備	担当者	土居 和幸
調査期間	960108～960329	遺跡処置	現状保存
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651013

位置 日田市街地のほぼ中央に位置する。文化14（1807）年に広瀬淡窓が開いた私塾として知られ、昭和7年に国史跡に指定されている。平成5年から史跡内に残る秋風庵などの確認調査を実施している。

内容 史跡内に4ヶ所の調査区を設定し、咸宜園跡に関係する遺構の確認を行った。調査では明治時代以降の攪乱などが著しく確認が難しかったが、関連すると考えられる建物遺構1棟を検出した。また、近世以前の土坑や柱穴なども確認し得た。遺物としては、染付や中世期の土師皿などが出土した。

まとめ 今回の調査では当時の咸宜園に付属する建物である講堂・東塾などの遺構確認を中心に行ったところ、庇付きの3間（以上?）×5間（以上?）の礎石建物遺構の一部が確認できた。この遺構の地表面には昭和29年に移築された咸宜園時代の客間である遠思楼があるため全容はつかめていない。しかしながら、大正年間の咸宜園絵図にはこの場所に天保3（1832）年に建築された心遠処（招隠洞）が描かれていることや残る記録などから、この建物遺構は、広瀬淡窓が客間や書斎として使っていた心遠処の一部と考えられる。（土居）



咸宜園跡位置図
(地形図「日田」使用)



咸宜園跡礎石建物遺構検出状況

176. クビリ遺跡

所在地	日田市大字東有田字クビリ	調査面積	1500㎡
調査原因	ウッドコンビナート建設	担当者	行時 志郎・森山敬一郎
調査期間	9601～9603	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	新発見

位置 クビリ遺跡は、石ヶ迫遺跡や平島横穴墓群のつくられた谷から分岐した枝谷の中央にある。

遺構 柱穴や焼土跡が確認されたが、明確な建物プランや住居跡などは検出できなかった。

遺物 奈良から鎌倉時代にかけての土器、須恵器、輸入陶磁器類が多数出土したほか、分銅型石製品（調査中に盗難）や鉄製品、鉄滓（鍛冶滓）など確認された。

まとめ 遺構は遺物の内容から鍛冶工房跡の存在が考えられる。小さな柱穴しかないので、簡単な作業場的なものであろう。同時期の集落が発見された石ヶ迫遺跡と関わりが注目される。
(行時・森山)



クビリ遺跡位置図
(地形図『日田』使用)



クビリ遺跡全景

177. 郷四郎遺跡

所在地	日田市大字十二町字郷四郎	調査面積	1500㎡
調査原因	店舗建設	担当者	松下 桂子
調査期間	950623～950728	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651044

位置 日田盆地の中心部、花月川と庄手川に挟まれた沖積地に位置する。この沖積地の大部分は条里跡として周知されているが、その範囲内におけるこれまでの発掘調査では条里跡は確認されていない。しかし地名では、郷四郎遺跡の近辺には「大綱手」という条里関連の名をもつ字名が残っている。

遺構 弥生時代／包含層
古墳時代／溝1条
奈良時代／溝3条
11～14世紀／溝1条
奈良時代～現代／水田跡

遺物 奈良時代／土器片（高坏など）
古墳時代／土師器（甕など）
奈良時代／土師器（坏など）
11～14世紀／土師皿、白磁碗

まとめ 今回の調査によって、古墳時代～中世にわたる溝5条が検出された。これらの溝と調査区周辺の地籍図を照合してみると、11～14世紀の溝が地籍図の地割りとはほぼ一致することがわかった。したがって、この地域で現在観察される「条里跡」は条里制が施行された時期のものではなく、中世前後の土地区画による可能性があるといえる。ただ、このことにより条里制の存在が否定されるのではなく、今後の周辺の調査によってそれが確認されることもあり得る。（松下）



郷四郎遺跡位置図
(地形図『日田』使用)



郷四郎遺跡全景

文献 『郷四郎遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第10集
日田市教育委員会 1996年

178. 徳瀬遺跡

所在地	日田市大字友田字徳瀬	調査面積	200㎡
調査原因	道路建設	担当者	松下 桂子
調査期間	960213～960223	遺跡処置	計画通り施工
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651101

位置 日田盆地のほぼ中心、庄手川と三隈川に挟まれた中洲の微高地に位置する。これまでに4度の調査が行われており、弥生時代前期後半～中期前半の住居跡・貯蔵穴・土坑、後期後半～古墳時代初頭の住居跡・溝、古墳時代前期の方形周溝墓・石棺・土坑墓などが検出されている。今回の調査区は、これらの遺構が検出された地域の北側で、より庄手川に近い地点である。



徳瀬遺跡位置図
(地形図『日田』使用)

遺構 弥生時代中期／包含層
中世～近世／水田跡

遺物 弥生時代中期／土器（甕、壺、高坏など）
石器
中世～近世／土師器など

まとめ 今回の調査では弥生時代中期の包含層と中世～近世の水田跡が確認された。包含層は砂地で、河原石の間に遺物が混入している状況であった。これは今回の調査区が以前の調査区よりも河川に近い位置であるため、このあたりは徳瀬集落の周辺部にあたり庄手川の氾濫原であったと考えられる。

また、包含層の上部では中世～近世の水田跡が検出されており、徳瀬周辺における水田開発は中世にはじまることがわかった。

(松下)



徳瀬遺跡調査区近景

179. ^{ひらしま}平島横穴墓群

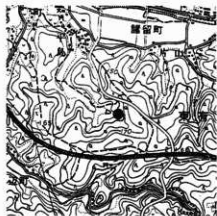
所在地	日田市大字東有田字神田	調査面積	8000㎡
調査原因	ウッドコンビナート建設	担当者	行時 志郎・松下 桂子・森山敬一郎
調査期間	9505～9603	遺跡処置	埋土により一部保存
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651179

位置 遺跡は日田盆地東部にあり、有田川南部に東西に延びる丘陵の間に刻まれた細長い谷の最深部に、約100mの長さにわたって計86基の横穴墓群が築かれている。

遺構 横穴墓は、大きく二時期に分かれる。古段階では、谷の高い位置につくられ、敷石がなく、玄室の壁面などに赤色顔料を塗布している。全部で8基検出されているが玄室全体のプランが残っているのは、最も南側に単独で築かれた1基のみである。新段階では、その下の低い位置に密集して築かれている。玄室の内部には敷石が並べられ、壁面には赤色顔料の塗布は認められない。奥壁は高く、正面からみると三角形を呈する。羨道は1m程度あり、玄室床面に向かって1ないし2の階段を設ける。閉塞石は、凝灰岩と安山岩の一枚石を用いている。墓道部は玄室1基に対し1墓道であるが、墓道の入り口を共有するものや墓道の間ほとんど段差を設けないものもある。これらは数グループに分けることができる。祭祀の形態は、墓前祭祀と玄室内における祭祀の両者があり、玄室内での祭祀では、長い墓道部を利用してその場所へ供献物を並べる方法が各墓に共通してみることができる。

遺物 使用された土器は、須恵器を主に使うものと土師器を主に使うもの、両者混合があり、使われた器種も様々で、各墓において個性が伺われる。祭祀に使用された後の土器の扱いについては、比較的完形品が多く、使用後に破砕行為の行われたものは少ないようである。副葬品としては鉄器、玉類が多い。鉄器は殆どの墓でみられたが、刀の副葬は2基のみである。

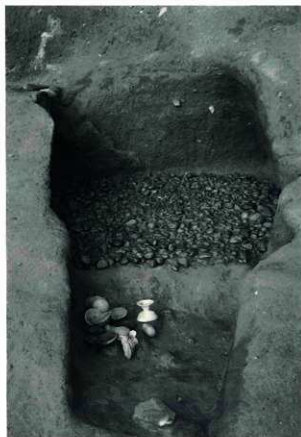
まとめ これらの時期については、遺物から古段階で6世紀中頃前後、新段階が6世紀後半から7世紀前半と考えられる。新段階においては玄室の形や墓道の造り方など共通点があり、墓地として全体的に規格的、計画的に行われたと考えられる。横穴墓の造られた谷の出口には、5～6世紀の集落が確認されている平島遺跡があり、その関係が注目される。(行時・松下・森山)



平島横穴墓群位置図
(地形図『日田』使用)



平島横穴墓群近景



平横穴墓群横穴墓検出状況



平横穴墓群遺物検出状況

180. ^{ふきあげ}吹上遺跡 (第6次調査)

所在地	日田市大字小迫字吹上原	調査面積	180㎡
調査原因	鉄塔建設・確認調査	担当者	土居 和幸・永田 裕久
調査期間	950508～960129	遺跡処置	現状保存
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651090

位置 遺跡は日田盆地北部、標高約140mの通称吹上原台地上に位置する。これまで市教委により5回の調査が行われ竪穴住居跡・貯蔵穴・墳墓等の遺構が確認されている。周辺の台地上には、小迫辻原遺跡、草場第2遺跡など大規模集落が点在している。

遺構 弥生前期末～中期前半/貯蔵穴4基
 中期後半/甕棺墓8基、木棺墓3基
 平安時代後期/経塚1基

遺物 1号木棺墓/銅剣・把頭飾
 2号甕棺墓/銅戈
 3号甕棺墓/人骨
 4号甕棺墓/人骨(男)・銅戈・鉄剣・ゴ
 ホウラ製貝輪・勾玉・管玉
 5号甕棺墓/人骨(女)・勾玉・イモガイ
 製貝輪

まとめ 今回の調査で注目される弥生時代中期後半代(立岩期)の墳墓群は、集落から離れた位置に造営され、豊富な副葬品等を有するなど吹上集落内における特定集団墓と見られる。中でも副葬品の質や量、さらに墓坑の規模が他の墳墓より卓越している4号甕棺墓は有力な日田地域の首長墓と考えられる。また、調査では5号甕棺墓の被葬者の右腕に装着されたイモガイ製貝輪が、その出土状況などからこれまで考えられていた幼年期からの着装と



吹上遺跡位置図
(地形図「日田」使用)

は異なる死装束的なものであることが確認された。このほか、4号甕棺墓は3個の甕を組み合わせて被葬室と副葬室に分け、5号甕棺墓には粘土枕を採用し、6号甕棺墓では石棺墓との組み合わせの構造とするなどかなり地

域的な様相を持つ特定集団墓であることがわかった。遺跡は幸いにも開発主の理解により保存され、平成8年3月に県史跡に指定された。
(土居・永田)

- 1 吹上遺跡6次調査地点全景
(真上より)
- 2 4号甕棺墓出土状況
(東側より)
- 3 5号甕棺墓人骨出土状況
(東側より)



181. ^{みわきょうだ}三和教田遺跡C地点

所在地	日田市大字清水町字貞清	調査面積	4000㎡
調査原因	道路建設	担当者	吉田 博嗣
調査機関	951121～960321	処置	計画通り施工
調査主体	大分県教育委員会	台帳番号	651044

位置 遺跡は盆地北部の花月川左岸の標高約105mの丘陵先端部に位置する。この丘陵の背後には通称山田原台地が控え、丘陵そのものは馬蹄形をなす。

遺構 縄文時代後晩期：集石（溝状遺構）
 弥生時代：土坑3基
 古墳時代後期：溝
 近世：溝

遺物 縄文時代の遺物は、後期を中心に土器・石器（石鏃、打製石斧、横刃型石器、磨石など）・土偶（3点）が出土。他は、弥生時代の土器、古墳時代の土師器・須恵器、中世の青磁碗、近世陶磁器が出土。

まとめ 調査区東側の旧河道より縄文時代後晩期の土器、石器類が一括資料として得られたことが成果として上げられる。また、同時期と考えられる集石遺構が丘陵の先端を南北に走っており興味深い。古墳時代・近世の溝は重複しているが、昨年度調査したB地点に同時期（古墳後期）の溝が検出されているのは注目される。
 （吉田）



三和教田遺跡C地点位置図
 （地形図「大行司」使用）

よそみち

182. 会所宮遺跡C地底

所在地	日田市大字田島	調査面積	1200㎡
調査原因	道路建設	担当者	永田 裕久
調査期間	960311～960405	処置	計画通り施工
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651152

位置 遺跡は日田盆地東部の沖積地上に位置している。これまで2度の調査が行われ、平成2年度には中世の溝列と大溝、平成4年度には弥生時代前期と古墳時代前期～中期の溝や中世の水田が確認されている。

遺溝	弥生時代/堅穴住居跡	1棟
	溝	2条
	土坑	11基
	古墳時代/溝	7条

遺物 弥生時代中期/土器(甕・壺など)
石包丁などの石器
古墳時代中期/須恵器など

まとめ 今回の調査では6基の土坑から弥生時代中期の須玖式を主体とした土器群がまとめて確認された。土器群は甕や壺を主とする。

堅穴住居跡については、柱穴のみの検出であることから遺跡自体がかなりの削平を受けているものと考えられる。(永田)



会所宮遺跡C地点位置図
(地形図「日田」使用)



会所宮遺跡全景(空撮)

むらまえ
183. 村前遺跡

所在地	日田市大字庄手字村前	調査面積	1200㎡
調査原因	保育所建設	担当者	永田 裕久
調査期間	950208～950302	処置	工事着工
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	新発見

位置 遺跡は日田市内の中央部、三隈川とその支流である庄手川の両河川によって挟まれた微高地上に位置している。

遺跡の周辺には徳瀬遺跡・萩鶴遺跡等の遺跡が立地し、又三隈河畔には近世日隈城跡と現在の隈町の前進となった町割が残る。

遺構 中世：大形掘立柱建物1棟（東西4間×南北12間）／掘立柱建物4棟／井戸1基／土坑1基／水田面2枚

遺物 龍泉窯青磁碗片・同安窯青磁皿片等

まとめ 今回の調査地点である庄手地区一帯は三隈川の氾濫原にあたり昭和28年の大洪水の際にもかなり広範囲に渡って冠水したという。そうした立地条件にもかかわらず中世の掘立柱建物群と水田面の確認は当時の村の姿を彷彿とさせるものであった。調査区の中央にある大形の掘立柱建物を中心にその左右に展開している掘立柱建物群は道路に並行するように東西に一列に並び、その前と一段落ちた後ろ側に水田が広がるという村落景観が想定される。
(永田)



村前遺跡位置図
(地形図「日田」使用)



村前遺跡調査地点全景(空撮)

あかほこ
 184. 赤迫遺跡

所在地	日田市大字田島字赤迫	調査面積	約1200㎡
調査原因	災害復旧	担当者	永田 裕久
調査期間	960325～960327	処置	継続調査
調査主体	日田市教育委員会	台帳番号	651147

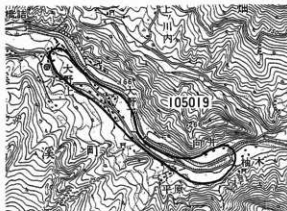
位置 遺跡は日田盆地東部の舌状に延びる尾根上に位置している。尾根上は大原八幡宮の境内地の一部であり、風倒木処理後の植樹作業中に棺材が露出したことから調査を行うことにした。

結果、3基の石棺が確認されており継続調査中である。
 (永田)



赤迫遺跡位置図
 (地形図「日田」使用)

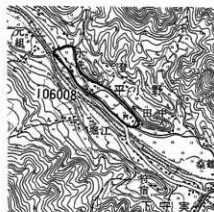
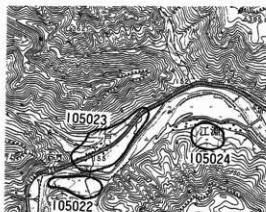
V. 新発見および範囲変更遺跡一覧



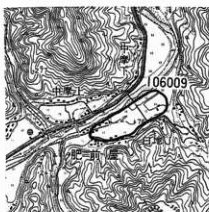
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
10118	相原山菅遺跡	中津市大字相原山菅	丘陵	墳墓	古墳・古代	火葬場	一部消滅	年報 3
10119	長者屋敷遺跡	中津市大字永添2303	台地	官衙・城跡	古代・近世	住宅	一部消滅	年報 5
10120	種男田遺跡	中津市大字永添	台地	包蔵地		住宅・畑	一部消滅	年報 4
10121	大道畑遺跡	中津市大字下能水	台地	集落	中世	住宅・水田	一部消滅	年報 4
10122	如水井	中津市大字大塚277-2		井戸	近世	道路	消滅	年報 3
105019	大野遺跡	下毛郡耶馬溪町大字大野字向井	河岸段丘	包蔵地	近世	水田	一部消滅	年報 3



耶馬溪町



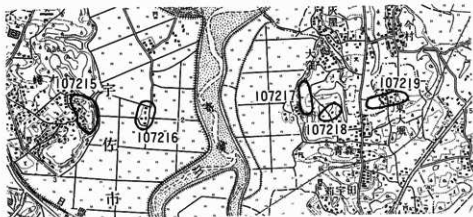
山国町



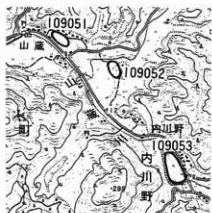
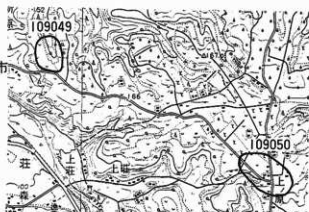
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
105020	黒法跡跡	下毛郡耶馬溪町大字山 跡字黒法跡	河岸段丘	包蔵地	弥生	水田	盛土保存	年報 3
105021	龍寶寺・八日市遺跡	下毛郡耶馬溪町大字	河岸段丘	集落	縄文・弥生・ 中世	水田		年報 5
105022	紗ヶ野遺跡	下毛郡耶馬溪町大字宮備 字紗ヶ野	河岸段丘	集落・包蔵地	弥生・近世	水田		年報 4
105023	一ツ戸遺跡	下毛郡耶馬溪町大字宮備 字一ツ戸	河岸段丘	集落	中世・近世	水田		年報 4
105024	江瀬遺跡	下毛郡耶馬溪町大字宮備 字江瀬	河岸段丘	墓地	古墳	水田		年報 3
106008	畑坪・水洗遺跡	下毛郡山国町大字小平野 字畑坪・水洗	河岸段丘	集落・包蔵地	縄文・中世	水田		年報 4
106009	中摩遺跡	下毛郡山国町大字中摩字 白地	河岸段丘	包蔵地	縄文・古墳・ 中世・近世	水田	一部消滅	年報 5



宇佐市



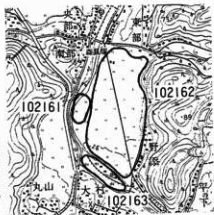
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
107213	下原遺跡	宇佐市大字法鏡寺字下原	台地	集落	弥生・古墳・ 平安	水田	一部消滅	年報 5
107214	辻平遺跡	宇佐市大字南字佐字辻平	台地	集落	弥生・古墳・ 中世	畑	一部消滅	年報 5
107215	松板遺跡	宇佐市大字榑木字大園	海岸段丘・ 台地	包蔵地	中世	住宅・畑・ 道路	一部消滅	年報 4
107216	長田遺跡	宇佐市大字松崎字長田	浜	包蔵地	近世	畑	一部消滅	年報 4
107217	西ノ段遺跡	宇佐市大字青森字西ノ段	海岸段丘	集落	縄文・古墳・ 古代・中世	畑・道路	一部消滅	年報 4
107218	大園遺跡	宇佐市大字青森字大園	海岸段丘	集落	弥生・古代	畑・道路	一部消滅	年報 4
107219	東屋敷遺跡	宇佐市大字東大郷字東屋敷	海岸段丘	集落	古代	住宅・畑・ 道路	一部消滅	年報 4



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
107220	蛇畑遺跡	宇佐市大字横津字蛇畑	河岸段丘	集落	弥生・古墳・古代	畑・グラウンド	一部消滅	年報4
109049	上ノ原栗ヶ迫遺跡	宇佐郡安心院町大字久井田	台地	集落	古墳	工場・畑地	一部消滅	年報3
109050	上ノ原柿迫遺跡	宇佐郡安心院町大字上庄	河岸段丘	包蔵地	弥生	畑	一部消滅	年報4
109051	小田遺跡	宇佐郡安心院町大字山蔵	河岸段丘	包蔵地	中世	水田		年報3
109052	出原遺跡	宇佐郡安心院町大字山蔵	丘陵	集落	中世	水田	一部消滅	年報3
109053	内川野遺跡	宇佐郡安心院町大字内川野	河岸段丘	包蔵地		水田	一部消滅	年報4
109054	大仏屋敷遺跡	宇佐郡安心院町大字大仏字屋敷	台地	集落	弥生・古墳	原野	一部消滅	年報5



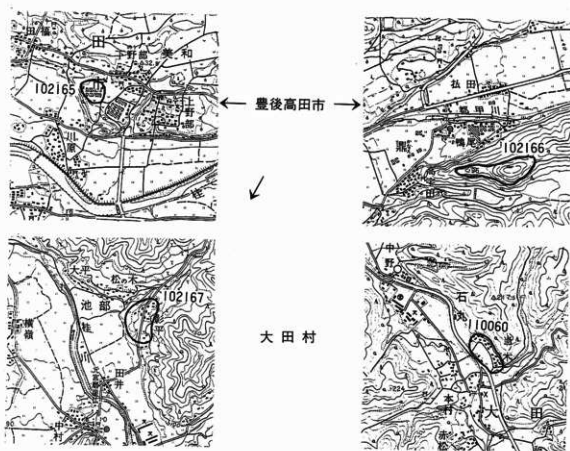
安心院町



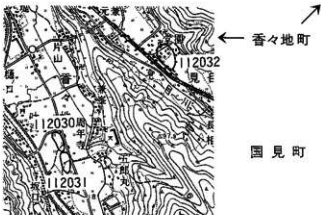
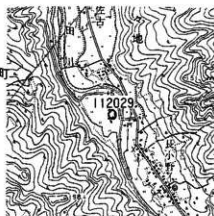
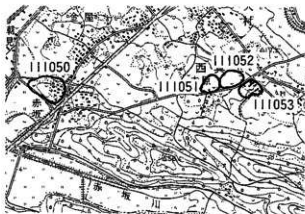
豊後高田市



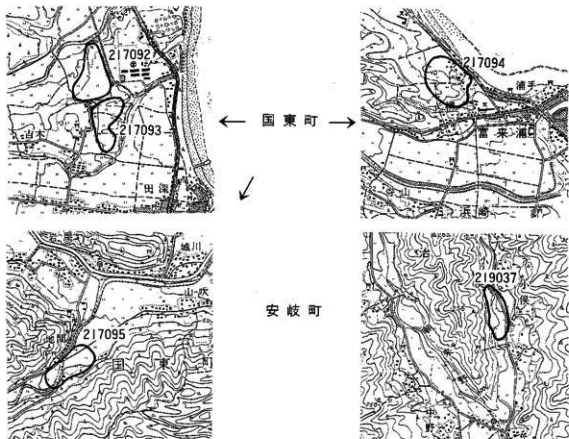
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
109055	川崎遺跡	宇佐郡安心院町大字川崎	台地	包蔵地	中世	水田	一部消滅	年報 4
109056	若林遺跡	宇佐郡安心院町大字若林子堂ノ元	河岸段丘	包蔵地	縄文	水田	一部消滅	年報 5
102161	松本遺跡	豊後高田市大字佐野字松本	河岸段丘	集落	弥生	水田		年報 4
102162	上殿遺跡	豊後高田市大字佐野字上殿	河岸段丘	集落	古代	水田		年報 4
102163	クギ遺跡	豊後高田市大字佐野字クギ	河岸段丘	集落	弥生・古代	水田		年報 4
102164	露林遺跡	豊後高田市大字来興字露林	台地	集落	鎌倉	水田	一部消滅	年報 3



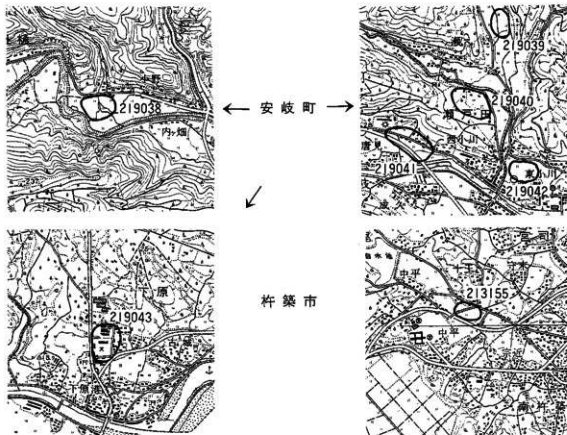
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
102165	高田城周辺遺跡	豊後高田市大字玉津	河岸段丘・台地	仮倉庫	中世	畑・住宅	一部消滅	年報4
102166	ナシカ谷遺跡	豊後高田市大字森	尾根	墳墓・神社跡	中世・近世	山林	一部消滅	年報4
102167	五反田遺跡	豊後高田市大字高部字五反田	台地	集落		畑・住宅		年報4
110060	堀田川遺跡	西園東郡大田村大字岐多方	谷	集落	中世・近世	水田	一部消滅	年報4



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
111050	和田鼻遺跡	西園東郡真玉町大字西真玉字和田鼻	台地	古墳	古墳	畑	一部消滅	年報 5
111051	谷ノ原遺跡	西園東郡真玉町大字真玉字谷ノ原	台地	集落	中世	畑	一部消滅	年報 4
111052	榎畑遺跡	西園東郡真玉町大字西真玉字榎畑	台地	集落	中世	水田	一部消滅	年報 3
111053	宮ノ元ノ下遺跡	西園東郡真玉町大字西真玉字宮ノ元	台地	集落	中世	水田	一部消滅	年報 3
112029	小池遺跡	西園東郡香々地町大字見目字小池	沖積平野	集落	中世	水田	一部消滅	年報 3
112030	坂口遺跡	西園東郡香々地町大字香々地字坂口	南岸平野	集落	縄文・弥生・古代・中世	水田	一部消滅	年報 3
112031	余瀨家庄屋敷跡	西園東郡香々地町大字長小野字大力坊	河岸段丘	園敷跡	近世	幼稚園舎	一部消滅	年報 3
112032	門田遺跡	西園東郡香々地町大字香々地字門田	沖積微高地	集落	弥生・古墳	水田	一部消滅	年報 3
215040	鬼燈遺跡	東園東郡国見町大字鬼燈	谷	包蔵地	弥生・古墳・中世	水田・住宅	一部消滅	年報 4



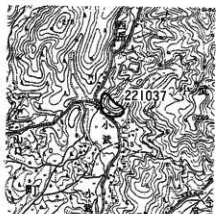
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	類別	時代	現況	保存状況	掲載年報
217092	秋国遺跡	東国東郡国東町大字北江字秋国	丘陵	集落	中世	水田	一部消滅	年報 3
217093	外園遺跡	東国東郡国東町大字北江字外園	丘陵	集落	中世	水田	一部消滅	年報 3
217094	後埴・後迫遺跡	東国東郡国東町大字富来浦字後埴・後迫	丘陵	集落	中世	水田	一部消滅	年報 5
217095	口寺田遺跡	東国東郡国東町大字赤松字口寺田	河岸段丘	集落	中世	水田	一部消滅	年報 5
219037	小俣遺跡	東国東郡安岐町大字明治字小俣	河岸段丘	包蔵地	中世	水田	一部消滅	年報 4



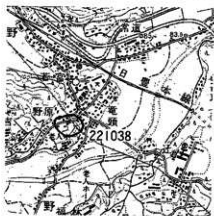
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
219038	大蔵遺跡	東国東郡安岐町大字掛樋字大蔵	河岸段丘	集落	鎌倉	水田	一部消滅	年報 3
219039	広長遺跡	東国東郡安岐町大字古松字広長	沖積平野	集落	弥生・古墳	水田	一部消滅	年報 5
219040	吉松市場遺跡	東国東郡安岐町大字古松字市場	河岸段丘	集落	縄文・弥生・古墳・中世	水田	一部消滅	年報 3
219041	安智遺跡	東国東郡安岐町大字瀬戸田字安智	河岸段丘	集落	近世	水田		年報 4
219042	六ツ枝遺跡	東国東郡安岐町大字瀬戸田字六ツ枝	沖積平野	包蔵地	中世	宅地	埋土保存	年報 3
219043	カキゾイ遺跡	東国東郡安岐町大字下原2071番地	台地	遺	中世・近世	グラウンド	一部消滅	年報 4
213155	十王前・田園遺跡	杵築市大字南杵築字十王前・田園	河岸段丘	遺	古墳	水田	一部消滅	年報 4



杵築市



山香町



日出町



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	遺況	保存状況	掲載年報
213156	神領貝塚	杵築市大字片野	沖積平野	貝塚	縄文	水田	盛土保存	年報 3
221037	小武遺跡	遠見郡山香町大字小武字今屋	河岸段丘	包蔵地	弥生・中世	水田・道路		年報 3
221038	熊塚遺跡	遠見郡山香町大字野原字熊塚	河岸段丘	貯蔵穴群	縄文	水田・道路	一部消滅	年報 4
220090	成来遺跡	遠見郡日出町大字大神字成来	海岸段丘	集落	弥生・古墳・中世・近世	水田		年報 4



大分市



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
322303	大在政所遺跡	大分市大字大在字政所	砂丘後背 園地	水田	弥生	宅地	一部消滅	年報 3
322304	大在第2浜遺跡	大分市大字大在字浜	砂丘	墳墓	弥生	宅地	一部消滅	年報 3
322306	大在沖遺跡	大分市大字大在字沖	砂丘	包蔵地	弥生	宅地		年報 3
322306	西大寺遺跡	大分市大字佐野字西大寺	河岸段丘	墓塚	古墳	道路	一部消滅	年報 6
322307	毛見所遺跡	大分市大字佐野字毛見所	河岸段丘	墓塚	中世	道路	一部消滅	年報 6
322306	古城山遺跡	大分市大字片島	尾根	包蔵地	旧石器・縄文	道路・山林		年報 4
322309	中竹中・小屋遺跡群	大分市大字中竹中・小屋	河岸段丘	包蔵地	中世・近世	道路・水田	一部消滅	年報 4



大分市



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
322310	数戸城津留遺跡	大分市大字鞆野字城津留	丘陵地	館跡	中世	宅地	一部消滅	年報 3
322311	荻原杉下遺跡	大分市大字鞆野字杉下	沖積平野	包蔵地	縄文・弥生・奈良	宅地・道路	一部消滅	年報 3
322312	北ノ後遺跡	大分市大字上京方字北ノ後	河岸段丘	包蔵地	弥生・古墳	道路・水田	一部消滅	年報 6
322313	光吉遺跡	大分市大字光吉	沖積平野	包蔵地	近世	道路・宅地		年報 3
322314	宮崎遺跡	大分市大字宮崎	沖積平野	包蔵地	近世	道路・宅地		年報 3
322315	曲遺跡	大分市大字曲	沖積平野	集落・包蔵地	弥生・中世・近世	道路・水田	一部消滅	年報 3

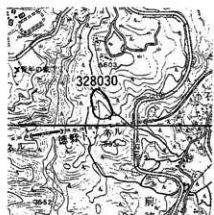


挾間町

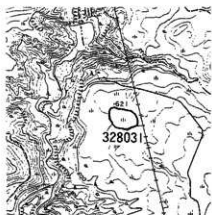
野津原町



湯布院町



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
326033	辻遺跡	大分郡挾間町大字三船字裏	河岸段丘	包蔵地	縄文	工場	一部消滅	年報 3
326034	下金遺跡	大分郡挾間町大字三船字下金	台地	集落		工場	一部消滅	年報 3
326035	石風呂遺跡	大分郡挾間町大字古野字石風呂	台地	包蔵地	中世		一部消滅	年報 4
326036	北屋敷ツル遺跡	大分郡挾間町大字古野字北屋敷ツル	台地	集落・包蔵地	縄文・弥生・古墳・中世	道路	一部消滅	年報 6
325011	町屋遺跡	大分郡野津原町大字野津原字町屋	沖積地	集落・包蔵地	縄文・弥生・近世	水田	一部消滅	年報 5
328030	かわじ池遺跡	大分郡湯布院町大字北城ヶ尾	谷	包蔵地	縄文・古墳・近世	道路・山林・水田	一部盛土保存	年報 3



湯布院町



臼杵市



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
328031	懸児屋遺跡	大分郡湯布院町大字塚原	丘陵	埋納遺跡	江戸	踏殺	一部消滅	年報 3
323078	高倉遺跡	臼杵市大字大野	台地	包蔵地	弥生・近世	宅地・畑		
323079	原遺跡	臼杵市大字大野	台地	包蔵地	縄文・弥生・近世	宅地・畑		
323080	田塚台遺跡	臼杵市大字江副田字西の原	台地	集落	弥生・中世	宅地・畑	一部消滅	年報 3
323081	芝尾台遺跡	臼杵市大字藤坊	台地	包蔵地	弥生・近世	宅地・畑		
323082	平岡台遺跡	臼杵市大字藤坊	台地	寺院跡	中世	畑		



白杵市



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
323083	馬代遺跡	白杵市大字前田	台地	館跡	中世	山林その他		
323084	市浜遺跡	白杵市大字市浜	沖積平野	町屋	中世・近世	宅地・水田		
323085	高見寺基址	白杵市大字福良	丘陵斜面	墓地	近世	墓地		
323086	左津留遺跡	白杵市大字左津留字塚田	沖積平野	塙墓	中世	水田	一部消滅	年報 3
323087	御持場遺跡	白杵市大字望月	丘陵	狩猟場	近世	山林		



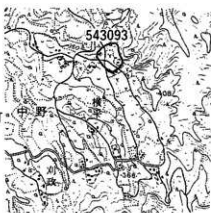
大銅町



野津町



大野町



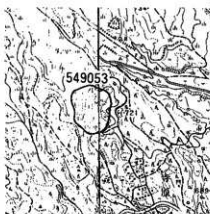
緒方町

台帳番号	遺跡名	所在地	立地	類別	時代	現況	保存状況	掲載年報
547067	下津尾遺跡	大野郡大銅町大字下津尾字大銅山	丘陵斜面		近世	山林		年報 5
540121	市場久保遺跡	大野郡野津町大字宮原字市場久保	台地	包蔵地・塚	旧石器・縄文・中世	山林		年報 4
545233	駒方寺畑・遺跡	大野郡大野町大字中屋字寺畑	台地	包蔵地	旧石器	道敷・畑	一部消滅	年報 4
543093	三ヶ塚遺跡	大野郡緒方町大字中野	丘陵	包蔵地	縄文	山林・畑		年報 3



直入町

久住町 →



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	類別	時代	票況	保存状況	掲載年報
56069	沢水遺跡	直入郡直入町大字長瀬字沢水	谷	集落・包蔵地	弥生・古墳	道路・水田		年報 4
549053	高岩遺跡	直入郡久住町大字白丹字高岩	台地	包蔵地	縄文・近世	ゴルフ場予定		年報 4
549054	坂切遺跡群	直入郡久住町大字有氏字下坂切	丘陵	集落	弥生・古墳・中世	水田	一部消滅	年報 5
549056	小原田遺跡	直入郡久住町大字有氏	台地	集落	中世	水田	一部消滅	年報 5
549055	仏原第Ⅰ遺跡	直入郡久住町大字仏原	台地	集落	中世・近世	水田	一部消滅	年報 5
549057	仏原第Ⅱ遺跡	直入郡久住町大字仏原	台地	集落	縄文・平安	水田	一部消滅	年報 5



竹田市



九重町



台帳番号	遺跡名	所在 地	立地	種 別	時 代	現 況	保存状況	掲載年報
539142	向山手遺跡	竹田市大字期田川字向山手	河岸段丘	置敷跡	江戸	河川・山林	一部消滅	年報 3
539143	茶屋 / 辻近世墓地跡	竹田市大字竹田字茶屋 / 辻	丘陵	墳墓	江戸	公園	一部消滅	年報 3
539144	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡	竹田市大字狭田37	谷	住居跡	縄文・近世	畑・川		年報 4
539145	野田家屋敷跡	竹田市大字竹田字渡内	谷	屋敷跡	近世・近代	道路	一部消滅	年報 4
653047	松木遺跡	玖珠郡九重町大字松木字大明神	丘陵	集落・包蔵地	縄文・弥生・古墳・奈良	道路・畑	一部消滅	年報 3
653048	約遺跡	玖珠郡九重町大字駒田字約	河岸段丘	包蔵地	縄文・古墳・中世・近世	その他	一部消滅	年報 5



天瀬町



← 日田市 →



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	類別	時代	現況	保存状況	掲載年報
658026	中馬原遺跡	日田郡天瀬町大字五馬市字中馬原	台地	包蔵地・集落・墳墓	旧石器・縄文・弥生・古墳・中世	畑	一部消滅	年報 3
651215	夕田横穴墓群	日田市大字有田字夕田	丘陵斜面	横穴墓	古墳	山林・道路	一部消滅	年報 3
651216	佐寺横穴墓群	日田市大字有田字佐寺	丘陵斜面	横穴墓	古墳	山林・道路	一部消滅	年報 3
651217	朝日・丘遺跡	日田市大字朝日・丘	台地	包蔵地	縄文・弥生	畑	一部消滅	年報 5
651218	村前遺跡	日田市大字庄手字村前	沖積地	集落・包蔵地	中世・近世	住宅・水田	一部消滅	年報 5

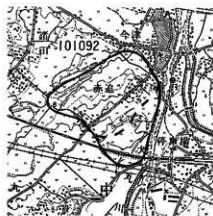


日田市



佐伯市

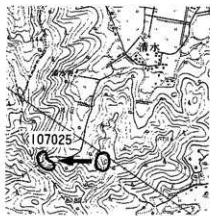
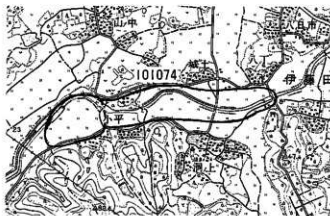
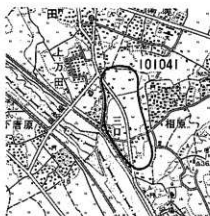
台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
651219	石ヶ迫遺跡	日田市大字東有田字石ヶ迫	丘陵斜面	集落	縄文・古墳・ 古代・中世	水田・畑	一部消滅	年報 5
651220	クビリ遺跡	日田市大字東有田クビリ	丘陵斜面	包蔵地	古代・中世	山林	一部消滅	年報 5
651221	有田塚ヶ原遺跡	日田市大字東有田字塚ヶ原	台地	集落	縄文・奈良	山林	一部消滅	年報 6
430022	熊形御番所遺跡	佐伯市中村南町	沖積地	屋敷跡	近世	駐車場	埋土保存	年報 6



← 中津市 →



宇佐市



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	類別	時代	現況	保存状況	掲載年報
101092	赤迫東遺跡(十穀場遺跡)	中津市大字赤迫	沖積平野	館跡	鎌倉	水田	一部破壊	年報 3
101041	三口遺跡	中津市大字相原388	河岸段丘	集落	古墳・古代	道路	一部破壊	年報 3
101074	大丸川流域遺跡群	中津市大字伊藤田	河岸段丘	集落	古墳	水田	一部破壊	年報 3
107025	上山田横穴墓群	宇佐市大字清水字上山田	丘陵	墳墓	古墳・古代	山林・道路	一部破壊	年報 4



↑ 國東町 日出町

白杵市

台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	随報年報
217052	安國寺遺跡	東國東郡國東町大字安國寺	沖積平野	集落	弥生・古墳・ 古代・中世	水田	一部破壊	年報 4
220015	山ノ内遺跡	遠見郡日出町大字豊岡字 太田	砂丘	包蔵地	縄文	住宅・ その他	一部破壊	年報 4
220018	太田遺跡	遠見郡日出町大字豊岡字 太田	砂丘	包蔵地	旧石器	住宅・ その他	一部破壊	年報 4
323033	大野遺跡	白杵市大字大野	台地	包蔵地	弥生	畑		年報 4
323059	狭瀬遺跡	白杵市大字狭瀬	台地	包蔵地	弥生	畑		



玖珠町



天瀬町



日田市



台帳番号	遺跡名	所在地	立地	種別	時代	現況	保存状況	掲載年報
652052	上の原横穴墓群	玖珠郡玖珠町大字帆足字上の原	丘陵斜面	横穴墓	古墳	道路・山林	一部破壊	年報 3
658011	杉園遺跡	日田郡天瀬町大字五馬市字杉園	台地	巨農地・奥座・墳墓	旧石器・弥生・古墳	畑		年報 4
651147	赤迫遺跡	日田市大字北豆田字赤迫	尾根・谷	包蔵地・溝・墳墓	縄文・弥生・古墳・中世・近世	山林・水田・公園	一部破壊	年報 4
651101	徳原遺跡	日田市大字友田字徳原	河岸段丘	包蔵地	弥生	住宅・水田	一部破壊	年報 5

VI. 現地説明会・展示会・講演会・シンポジウム等一覧

1. 現地説明会

名 称	主 催	内 容	期 日	参加人数
長者屋敷遺跡現地説明会	中津市教委	下毛郡衝の正倉と推定される当遺跡の説明	平成8年 2月12日	約350人
辻平遺跡現地説明会	宇佐市教委	弥生時代中～後期の集落、13～14世紀頃の土坑墓の説明（宇佐高校生を対象）	平成7年 7月27日	約50人
下原遺跡現地説明会	宇佐市教委	弥生時代中～後期の大型柱穴遺物を伴う環溝集落、古墳時代後期の集落、12世紀の墓の説明	平成8年 2月25日	約50人
考古コース ふるさと歴史講座	大分市歴史資料館	下郡遺跡群からみた弥生時代とその発展	平成7年 7月29日	38人
下野遺跡現地説明会	朝地町公民館	下野遺跡その他周辺地域の歴史	平成8年 2月9日	約50人
ジュニア塾・仲よしクラブ	本匠東西公民館	村内小学生を対象とし、現地の見学と説明	平成7年 6月1日	約30人
立野古墳現地説明会	大分県教委	三重町所在立野古墳と、測量および範囲確認調査の説明	平成8年 3月3日	約60人
吹上遺跡現地説明会	日田市教委	第6次調査で発見された甕棺墓の一般公開	平成7年 7月2日	約300人
清水遺跡と周辺の歴史	大分市松岡校区 公民館	大野川下流域の開発史の観点から松岡の歴史をみる。 清水遺跡の現地説明	平成8年 2月29日	約100人

補 遺

縄文人の世界	宇佐風土記の丘 歴史民俗資料館	全国から縄文時代の重要な遺物を集め、縄文人の世界を再現	平成6年 10月14日～ 11月13日	宇佐風土記 の丘歴史民 俗資料館	14050人
--------	--------------------	-----------------------------	---------------------------	------------------------	--------

2. 展示会

名 称	主催	内 容	期 日	会 場	参加人数
宇佐航空隊の 世界展Ⅲ	宇佐市塾	高森城跡出土の航空隊関係遺物などを展示	平成7年 4月15日	宇佐文化会館 展 示 室	約300人
宇佐航空隊の 世界展	宇佐市塾	高森城跡出土の航空隊関係遺物などを展示	平成7年 9月9日～ 9月10日	小倉そごう	約600人
秋期企画展 ～宇佐虚空蔵寺と その時代～	別府大学 同 付 属 博 物 館 宇佐市教委	虚空蔵寺関係の調査成果を中心に、宇佐市で20年間に発掘された重要な遺物などの展示	平成7年 10月21日～ 11月25日	別 府 大 学 付 属 博 物 館	約2000人 3000人
宇佐市産業祭	宇佐市教委	川部遺跡出土遺物などの展示、火起こし・瓦製作古代料理実演	平成7年 11月25日・ 11月26日	古代ふれあい 広 場	約500人
「海辺の出土品展」 海部古代教室	大分市教委	海辺地域の出土品の展示と解説	平成7年 9月9日～ 17日	板の市公民館	約1000人
第2まなびピア佐伯	佐伯市教委	天祐館遺跡出土遺物展	平成7年 10月28日～ 29日	佐伯文化会館	430人
千人塚遺跡展	緒方町教委	中世墳墓群の紹介	平成8年 3月30日～ 4月28日	緒方町立歴史 民俗資料館	300人
ふるさとまつり	本 匠 村	堂ノ間遺跡出土遺物や各種説明パネルの展示	平成7年 11月4日 5日	本匠西小学校	1200人
村民大学講座	本匠村教委	堂ノ間遺跡出土遺物展示	平成7年 11月9日	本匠西公民館	60人
九重町文化財展	九重町教委	町内出土の考古資料および県・町指定文化財のパネル展	平成7年 10月28日 29日	九 重 町 役 場	300人
新日田の指定 文 化 財 展	日田市教委	平成6年度に新たに指定された文化財の紹介と展示	平成7年 5月22日～ 6月9日	日 田 市 役 所	600人
吹上遺跡発掘 調査速報展	日田市教委	吹上遺跡第6次調査出土品の展示	平成7年 10月21日～ 12月3日	日 田 市 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー	981人
小迫辻原遺跡復元 模型一般公開展	日田市教委	小迫辻原遺跡および居館模型の一般公開	平成7年 12月1日～ 12月22日	日 田 市 役 所	600人
おおいた話題の 資 料 展	宇佐風土記 の 丘 歴 史 民 俗 資 料 館	平成7年度に国・県指定となった物件、話題となった遺物や遺跡の出品など。資料館の新購入資料	平成8年 3月20日～ 4月21日	宇佐風土記の 丘 歴 史 民 俗 資 料 館	2000人

3. 講演会・シンポジウム

名 称	主 催	講 師	内 容	期 日	会 場	参加人数
歴史考古学 セミナー 宇佐虚空蔵寺と 古代仏教	別府大学 同付属博物館 宇佐市教委	後藤 宗俊 亀田 修一 伊藤 勇人 飯沼 賢司	虚空蔵寺に関する研究発表と研究討議	平成7年 5月27日	別府大学 研 修 センター	約120人
シンポジウム 「天平の宇佐」	別府大学 同付属博物館 宇佐市教委	賀川 光夫 中野 輔能 新川登亀男	虚空蔵寺に関する講演と パネルディスカッション	平成7年 5月28日	宇佐文化 会 館 大ホール	約800人
市民歴史講座 「宇佐の現代史」	宇佐市教委	平田 崇英	「宇佐航空隊関係遺跡の 調査と保存」と題し、現 存する掩体壕の調査や保 存活動についての講演	平成7年 9月16日	別府大学 研 修 センター	約80人
歴史フォーラム 宇佐'95 沙門法蓮 ～その仏教と 人間像～	別府大学 同付属博物館 宇佐市教委	後藤 宗俊	虚空蔵寺を建てたとされ ている法蓮について数少 ない史料や当時の社会情 勢などを踏まえながら明 らかにした	平成7年 10月21日	別府大学 3号館 地下 ホー ル	約200人
別府大学考古学 実習講座	別府大学	小倉 正五 江藤 和幸 林 一也	虚空蔵寺出土瓦の製作技 法についての講義と実習	平成7年 10月24日 11月7日	別府大学 同 属 博 物 館	約90人
歴史博物館・資料 館とこれからの 地域づくり	宇佐・国東 半島の文化 財を守る会	高倉 洋彰	九州国立博物館構想と地 域博物館の在り方など について記念講演をした	平成8年 2月1日	宇佐文化 会 館 小ホール	約300人
市民歴史講座 「奈良時代の宇佐」	宇佐市教委	後藤 宗俊	虚空蔵寺を建てたとされ ている法蓮について史料 や当時の社会情勢などを 踏まえながら宇佐八幡と の関係を示した	平成8年 2月24日	宇佐文化 会 館 小ホール	約200人
市民歴史講座 「弥生・古墳 時代の宇佐」	宇佐市教委	小倉 正五	市内に所在する弥生古墳 時代の遺跡から菟狹津彦 ・菟狹津媛の原像を探る	平成8年 3月9日	別府大学 研 修 センター	約80人
ふるさとの歴史 講 座 歴史コース	大分市歴史 資料館	武富 雅宜 高橋 徹 長田 弘通 飯沼 賢司 吉良 国光 大津 祐司 日本 政宏 松本寿三郎	大山寺の総合調査(1) 大山寺の総合調査(2) 中世の鶴崎と吉岡氏 古代・中世の豊後 大野川の河川交通 教育者としての毛利空桑 秋山玉山の人と思想 熊本藩と鶴崎	平成7年 4月8日～ 6月13日	大分市 歴 史 資 料 館	約600人
夏休みジュニア 講 座	大分市歴史 資料館	資料館職員	弥生時代の土器の復元、 検地体験、ワラ草履作り 発掘作業の体験	平成7年 7月25日～ 7月28日	大分市 歴 史 資 料 館	約40人

名 称	主 催	講 師	内 容	期 日	会 場	参加人数
ふるさとの歴史 講座 考古コース	大分市歴史 資料館	綿貫 俊一 後藤 一重 坪根 伸哉 坂本 嘉弘 池辺千太郎 神田 高士 高橋 信武 小柳 和宏 太田 博幸 木村幾太郎	旧石器時代のくらし 縄文時代のムラ 下郡遺跡群からみた弥生 時代とその発展 大分の横穴墓 海部の支配者 古代の中央と地方 古代のムラと領域 熊本県鞠智城について 府内城をめぐる	平成7年 7月8日～ 9月30日	大分市 歴史 資料館	521人
考古学からみた 朝地の歴史	朝地町公民館	賀川 光夫	旧石器時代から現代まで	平成8年 2月6日	朝地町 公民館	50人
文化財講習会	緒方町教委	坂本 嘉弘	中世の緒方について	平成8年 3月23日	緒方町立 歴史民俗 資料館	30人
村民大学講座	本匠村教委	賀川 光夫 後藤 一重	堂ノ間遺跡発掘調査報告 講演「堂ノ間遺跡の縄文 文化」	平成7年 11月9日	本匠西 公民館	約60人
第1回豊の国歴史 再発掘まちづくり フォーラム'95 「戦国の世から平 和の時代へよみが える角半礼城跡」	大分県教委 玖珠町 玖珠町教委	石井 達 村田 修三 伊藤 正義 北垣聡一郎 服部 英雄 玉井 智雄 豊田 寛三	角半礼城跡の歴史的意義 と今後の整備と活用につ いて	平成7年 11月11日・ 11月12日	玖珠町 中央 公民館	約1200人
日 田 市 文 化 財 政 公 開 講 座	日田市教委	市 教 委 後藤 宗俊 田中 良之 下条 信行 高倉 洋彰 木下 尚子 小田富士雄	吹上遺跡の発掘調査成果 ヒタのクニの時代 弥生人にせまる 石、青銅、鉄の武器 弥生の墓 日田盆地と貝の道 北部九州のクニグニと吹 上遺跡	平成7年 10月22日～ 11月26日	日 田 市 役 所	約 300人
日・中・韓国 シンポジウム 「稲作と 長江文明」	大分県教委 宇佐風土記 の丘 歴史 民俗資料館	梅原 猛 樋口 隆康 毛 昭晰 他	中国での最近の調査研究 成果をもとに、稲作の起 源や中国文明の源流を探 る	平成8年 1月14日	別 府 ビーコン プラザ	約 700人

4. 研 修

研 修 名	主 催	場 所	内 容	期 日	参加者
平成7年度埋蔵文化財 技術者一般研修	国立奈良 文化財研究所	同 左	発掘調査および保存 に関する知識の修得	平成7年 7月4日～ 8月9日	田中布由彦
平成7年度大分県 市町村埋蔵文化財 担当者会議	大分県市町村 埋蔵文化財担当 者連絡協議会	大 分 市 コ ン パ ル ホ ー ル	発掘調査基準につい て。古代中世土器研 究の現状と課題	平成7年 6月23日・ 6月24日	
平成7年度中世城館等 発掘調査測量研修会	大分県教委	大分市天面山	中世城館等発掘調査 に伴う縄張り作成な どの測量研修会	平成7年 11月30日・ 11月31日	
平成7年度第2回 大分県市町村埋蔵 文化財担当者会議	大分県市町村 埋蔵文化財担当 者連絡協議会	玖珠町中央 公 民 館	発掘調査の効率化・ 埋蔵文化財の基礎知 識について。角牟礼 城視察	平成7年 12月12日・ 12月13日	
平成7年度大分県埋蔵 文化財担当者研修会	大分県教委	大 分 県 共 同 庁 舎	地域における遺跡の 整備と活用、発掘作 業員の雇用保険等につ いて	平成8年 1月11日・ 1月12日	
第2回発掘作業員 研 修 会	宇佐市教委	宇佐公民館	発掘作業の勤務労働 条件の研修	平成8年 2月1日	林 一也 佐藤良二郎
平成7年度埋蔵 文化財技術者特別研修	国立奈良文化財 研 究 所	同 左	環境考古学課程	平成7年 11月27日～ 12月15日	塩地 潤一
第10回指定文化財 展示取扱講習会	文 化 庁	京 都 国 立 博 物 館	美術工芸品の公開・ 保存について	平成7年 11月28日～ 12月1日	吉武 牧子

VII. 平成7年度の史跡・指定（埋蔵）文化財一覧

指定物件一覧

名称または物件	指定区分	所在地	所有者、管理団体	管理団体	摘 要
国東塔（1基）	市指定有形 文化財	宇佐市大字西屋敷	馬 渡 悟	平成8年 2月27日	
カワラガマ遺跡	県指定 史跡	豊後高田市大字佐野 485 他	豊後高田市	平成8年 3月29日	平窯跡
吹上遺跡	県指定 史跡	日田市大字小迫字 吹上原193-2	NTT九州移動 通信網株式会社	平成8年 3月29日	弥生時代の墳墓群
龜塚古墳	国指定史跡	大分市大字里字大塚 599番地	大分市 他	平成8年 3月28日	古墳

Ⅷ. 平成7年度刊行の埋蔵文化財関係文献一覧

A 県教育委員会

- 『よみがえる角牟礼城跡』(第1回豊の国歴史再発掘/まちづくりフォーラム95シンポジウムパンフレット) 大分県教育委員会・玖珠町・玖珠町教育委員会
- 後藤一重編『大分県内遺跡発掘調査概報』4 1996.3
- 玉永光洋・稲村博文ほか『徳瀬遺跡』(大分県文化財調査報告書94) 1996.3
- 綿貫俊一編『大分県埋蔵文化財年報』4 1996.3
- 高橋 徹・江田 豊・田中裕介・友岡信彦・志賀智史『机張原遺跡 女狐近世墓地 庄ノ原遺跡群』(九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5) 1996.3
- 吉田 寛『府内城三ノ丸北口跡』1996.3
- 高橋 徹・友岡信彦編『利光遺跡 上戸次北遺跡 上戸次遺跡』(一般国道10号戸次・犬飼拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報2) 1996.3
- 綿貫俊一編『横手遺跡群発掘調査報告書』(大分県文化財調査報告93) 1996.3
- 高橋 徹『岩崎横穴墓一七瀬川河川改修工事に伴う発掘調査報告書一』1996.3

B 宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

- 『稻作と長江文明』(日・中・韓国際シンポジウムパンフレット) 1996.1
- 原田昭一編『六郷山寺院遺構確認調査報告書』IV (宇佐歴史報告17) 1996.3
- 原田昭一・桜井成昭・三角寛一・渡辺文雄『豊後国香々地荘』3 (国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報) 1996.3

C 市町村教育委員会

- 栗焼憲児編『帯旗邸古墳1号墳』(中津市文化財調査報告16) 1995.8
- 高崎章子・花崎徹『沖代地区条里跡 福島遺跡東入垣地区』中津地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ(中津市文化財調査報告17) 1996.3
- 佐藤良二郎・江藤和幸『宇佐東部地区ふるさと農道緊急整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書—東屋敷遺跡 大園遺跡 西ノ股遺跡 石原貝塚2次調査—』宇佐市教育委員会1996.3
- 林 一也・川谷浩・江藤和幸『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』Ⅶ 宇佐市教育委員会 1996.3
- 下村精一『真玉地区遺跡群発掘調査概報』3 真玉町教育委員会 1996.3
- 河野典之・大久保謙一郎『豊後高田地区遺跡群発掘調査概報』Ⅷ 豊後高田市教育委員会1996.3
- 永松みゆきほか『關弓遺跡』(国東町文化財調査報告書12) 国東町教育委員会 1996.3
- 藤本啓二ほか『千疋遺跡』(国東町文化財調査報告書13) 国東町教育委員会 1996.3
- 中桐省三・山本輝雄『史跡安国寺集落遺跡史跡整備基本設計』国東町 1996.3
- 平川信哉・後藤方彦『十王前・田淵遺跡発掘調査報告書』(杵築市埋文調査報告8) 1996.3
- 『大分市歴史資料館ニュース』31 大分市歴史資料館 1995.7

- 坂本嘉弘「国分ニュータウンで採集した縄文土器」p.7
 『大分市歴史資料館年報（平成6年度）』大分市歴史資料館 1995.9
- 坂本嘉弘「大分平野周辺の磨消縄文土器の編年」pp.12~22
 『大分市歴史資料館ニュース』32 大分市歴史資料館 1995.10
- 坂本嘉弘「上野遺跡とその周辺で出土した遺物」p.7
 木村幾多郎・武富雅宣編『豊後府内城』（第14回特別展「城のある風景」図録）1995.10
 『大分市歴史資料館ニュース』33 大分市歴史資料館 1996.1
- 吉田 寛「府内城三ノ丸北口跡の発掘調査」p.7
 『大分市文化財だより 1995年度号』大分市教育委員会 1996.3
- 秦 政博ほか『国指定史跡古宮古墳保存修理事業報告書』大分市教育委員会 1996.3
- 秦 政博ほか『国指定史跡大分元町石仏保存修理事業報告書』大分市教育委員会 1996.3
- 池辺千太郎編『木ノ上地区重要遺跡確認調査報告書』大分市教育委員会 1996.3
- 神田高士『下中尾遺跡』日杵市教育委員会 1996.3
- 諸岡 郁『神箱遺跡（C地区）』三重町教育委員会 1996.3
- 宮内克己『山野城跡』久住町教育委員会 1996.3
- 宮内克己・高橋信武編『市第Ⅰ遺跡・石田遺跡』（県営担い手育成基盤整備事業都野東部地区に伴う発掘調査報告Ⅰ）久住町教育委員会 1996.3
- 村上久和・衛藤麻衣『町墳墓群』朝地地区遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 朝地町教育委員会 1996.3
- 坂本嘉弘・高野弘之『よみがえる中世の緒方』（千人塚遺跡展パンフレット）緒方町立歴史民俗資料館 1996.3
- 城戸 誠・鳥養孝好『四山社製糸工場跡発掘調査報告書』竹田市教育委員会 1995.11
- 真田博幸・城戸 誠『一般国道57号（竹田拡幅）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ-戸上遺跡・穴井迫第2遺跡-』竹田市教育委員会 1996.3
- 真田博幸・城戸誠『竹田地区南部遺跡群Ⅶ 史跡岡城跡周辺遺跡群Ⅱ』竹田市教育委員会 1996.3
- 佐伯 治『史跡岡城跡』Ⅺ 竹田市教育委員会 1996.3
- 土居和幸・永田裕久『吹上遺跡-6次調査の概要-』日田市教育委員会 1995.12
- 行時志郎『萩鶴遺跡』（日田市埋蔵文化財調査報告9）日田市教育委員会 1995.10
- 松下桂子『郷四郎遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告10 日田市教育委員会 1996.3

D 市町村史等

- 『弥生町誌』弥生町 1996.2
- 高橋 徹「先史・原始時代」pp.235~249
- 後藤宗俊「古代」pp.251~269
- 小野英治「榎牟礼城と小田山城（新城）の構造」pp.330~338

E 研究機関

坂本嘉弘「大分県の石器」『農耕開始期の石器組成2—九州—』（国立歴史民俗博物館資料調査報告書7）pp.645～682 国立歴史民俗博物館 1996.3

F 別府大学関係

『別府大学博物館研究報告』17 1996.2 別府大学博物館学課程

飯沼賢司「虚空蔵寺とその時代展」について pp.1～7

大野康弘「立地別に見る近世城址の保存整備について」pp.8～18

『天平と字佐—字佐虚空蔵寺と古代仏教—』1996.3 別府大学付属博物館・宇佐市教育委員会

賀川光夫「字佐虚空蔵寺遺跡調査40年」pp.3～4

小倉正五・佐藤良二郎・林一也「虚空蔵寺跡と瓦窯跡群」pp.5～54

亀田修一「中国・四国地方の法隆寺式軒瓦」pp.55～77

G 県内雑誌等

『おおいた考古』7 1995.5 大分県考古学会

賀川光夫「豊国の原像を求めて」pp.2～7

都出比呂志「前方後円墳体制とその時代」pp.8～25

田中裕介「東九州における古墳時代首長系譜の変遷と画期（上）」pp.41～77

諸岡 郁「大分県三重町重政古墳の測量調査と採集埴輪について」pp.78～82

神田高士「下山古墳の壘型埴輪」pp.83～85

下村精一・江藤和幸「真玉町野内古墳の測量調査報告」pp.86～93

池邊千太郎「大分市松岡所在の小牧山古墳群について」pp.94～105

『佐伯史談』169 佐伯史談会 1995.6

小野英治「小田山城について」pp.1～7

『大分県地方史』158 1995.8 大分県地方史研究会

玉永光洋 書評：「東シナ海を囲む中世世界」『中世の風景を読む』7 pp.54～58

『文化財21世紀へ—第3回おおいた文化財フォーラム「大分」—』（大文協ぶっくす3）大分県文化財保存協議会 1995.9

小笠原好彦「史跡保存と文化財保護行政」pp.2～8

十菱駿武「博物館と文化財を生かしたまちづくり」pp.9～24

用松律夫「94文化財フォーラムから」pp.26～27

『文化財おおいた21』大分県文化財保存協議会報9 大分県文化財保存協議会 1995.9

甘粕 健「文化財保存運動と考古学40年の歩み」pp.3～11

用松律夫「小牧山古墳群をめぐる諸問題」pp.12～13

加藤伸一「大分県の博物館をめぐる諸問題」pp.14～16

『大分県地方史』159 大分県地方史研究会 1995.10

- 小柳和宏「宇佐高村と中世雑器生産」pp.19~38
『臼杵史談』86 臼杵史談会 1995.12
賀川光夫「大日如来像の造立・崩壊・修復」pp.1~13
仲嶺真信「石仏研究の黎明と臼杵石仏」pp.14~24
菊田 徹「臼杵磨崖仏周辺の石造物」pp.25~36
神田高士「峠の茶屋(2) - 茶屋峠遺跡・殿様道の調査から -」pp.77~85
『二豊の石造美術』16 大分県石造美術研究会 1995.12
段上達雄「日本の石工史 I - 石工と石材加工の歴史 -」pp.3~22
『古代朝鮮文化を考える』10 大分の古代朝鮮文化を考える会 1995.12
賀川光夫「文化財保護の難しさ」pp.6~12
松尾則夫「大分の古墳と神社(九)」pp.90~110
平野静雄「小牧山古墳群発見の経緯について」pp.111~120
『大分大友土器研究』14 (古代・中世土器編年集成図録) 大分大友土器研究会 1996.2

H 九州内の雑誌等

- 『古文化談叢』34 九州古文化研究会 1995.5
九州古文化研究会「豊前地方の古代寺院と古瓦 - 第80回九州古文化研究会(中津大会)の記録 -」
pp.1~130
『九州における古墳時代首長墓の動向』九州考古学会・宮崎考古学会合同学会実行委員会 1995.6
大分市教育委員会「大分県大分市亀塚古墳」pp.24~27
田中裕介「古墳時代首長墓の動向 - 豊後 -」pp.28~40
『古文化談叢』35 九州古文化研究会 1995.11
坂本嘉弘「西日本の押型土器の展開 - 九州からの視点 -」pp.1~22
渡辺幹雄・高野弘之・原田昭一「旧豊後国における『やぐら』の新例」pp.79~93
『豊前国の古代寺院展図録』豊津町歴史民俗資料館 1996.3

I 九州外の雑誌等

- 『日本考古学年報』46 (1993年度版) 1995.7 日本考古学協会
小林昭彦「大分県」pp.402~408
小倉正五・林一也・段上智代「大分県宇佐市虚空蔵寺瓦窯跡群」pp.576~579
Kagawa Mitsuo "Primitive Agriculture in Japan" (私家版) 1995.4
『風土記の考古学4 - 豊後国風土記の巻 -』1995.5 同成社
木村幾多郎「自然遺物にみる原始・古代豊後の食生活」pp.33~53
玉永光洋「山の生活 - 大野川上・中流域集落遺跡の調査より -」pp.55~80
土居和幸・田中裕介「最古の居館・小迫辻原遺跡」pp.81~102
菊田 徹「海部の古墳 - 海部とヤマト王権 -」pp.103~128

- 蹟岐和夫「古宮古墳と大分君」 pp.129～152
 小田富士雄「『豊国』の装飾古墳」 pp.153～182
 池邊千太郎「豊後の横穴墓」 pp.183～210
 後藤宗俊「豊後における古道と駅制」 pp.211～230
 真野和夫「豊後の寺々—寺院跡の調査より—」 pp.231～256
 賀川光夫「考古学的にみた豊後磨崖仏」 pp.257～283
 『明日への文化財』36・37 文化財保存全国協議会 1995.6
 二宮淳一郎「大分県文化財保存協議会 三年の歩み」 pp.39～44
 用松律夫「遺跡保存の事例—小迫辻原遺跡（大分県）—」 pp.120～121
 『中世都市研究』2 新人物往来社 1995.9
 王永光洋「都市・城館研究の最新情報—九州—」 pp.301～335
 『考古学ジャーナル』393 ニュー・サイエンス社 1995.9
 渋谷忠章「古代（西日本）」 pp.84～90
 『考古学ジャーナル』395 ニュー・サイエンス社 1995.10
 渋谷忠章「豊前・豊後の装飾古墳」 pp.23～27
 『全国古墳編年集成』雄山閣 1995.11
 高橋 徹「豊前・豊後」 pp.20～23
 『考古学の諸相』（坂詰秀一先生還暦記念論文集）坂詰秀一先生還暦記念会 1996.1
 吉田博嗣「中国の青銅製鏡について」 pp.51～66
 渋谷忠章「大分県における中世墳墓の展開」 pp.111～130
 小林昭彦「九州における古代瓦窯の展開」 pp.449～468
 池邊千太郎「九州における初期横穴墓と地下式横穴墓」 pp.773～792
 『西部瀬戸内の弥生文化—前期弥生土器の諸相—』山口考古学談話会百回記念大会実行委員会 1996.2
 坪根伸也「東九州（大分）の弥生前期土器」 pp.43～65
 『季刊考古学』54 雄山閣 1996.2
 土居和幸・永田裕久「弥生中期の墳墓群—大分県日田市吹上遺跡」 pp.87,88
 『考古学ジャーナル』399 ニュー・サイエンス社 1996.2
 賀川光夫「考古学と文化遺産憲章」 p.1
 『明日への文化財』38 文化財保存全国協議会 1996.3
 用松律夫「宇佐市城井一号掩体壕—掩体壕など戦争遺跡の保存運動と今後—」 pp.11～17
 『古代の木製食器』（第39回埋蔵文化財研究会資料第Ⅲ分冊）埋蔵文化財研究会 1996.3
 坂本嘉弘「大分県」 pp.411～422
 『考古学ジャーナル』400 ニュー・サイエンス社 1996.3
 賀川光夫「九州地方の弥生文化研究回顧」 pp.17～23

L 一般書

- 賀川光夫編『白杵石仏』吉川弘文館 1995.5
 賀川光夫「白杵石仏の調査と研究」pp.1~18
 仲嶺真信「白杵石仏群」pp.19~69
 飯沼賢司「豊後石仏造立の歴史的背景」pp.70~119
 菊田 徹「考古学よりみた白杵石仏」pp.120~162
 賀川光夫「白杵石仏終論」pp.163~172
 橋 昌信『日本の古代遺跡49 大分』保育社 1995.6

補 遺

- 佐脇義敏ほか『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報（玖珠～湯布院間）第1集-かわじ池遺跡・松木遺跡-』大分県教育委員会 1994.3
 河野典之・大久保謙一郎『豊後高田地区遺跡群発掘調査概報』X 豊後高田市教育委員会 1994.3
 平川信哉・後藤方彦『杵築地区遺跡群発掘調査概報V』（杵築市埋文調査報告6）1994.3
 桑原幸則「初期国東型宝塔の様相」『文化財学論集』1994.8
 吉田 寛「寛保の大火に伴う一括資料」『災害と江戸時代』pp.146~152（江戸遺跡研究会第8回大会）江戸遺跡研究会 1995.1
 小倉正五「遺跡の分布にみる古代の宇佐郡」『地域総合研究論文集-宇佐・院内・安心院地域-』1995.3 大分大学教育学部
 橋 昌信編『牟礼越遺跡』別府大学付属博物館 1995.3
 栗田勝弘編『六郷山寺院遺構確認調査報告書』Ⅲ（宇佐歴史報告15）1995.3
 小倉正五・林 一也・江藤和幸・段上智代『一般国道10号宇佐別府道路に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-虚空蔵寺遺跡 切寄遺跡 下林遺跡Ⅳ区-』宇佐市教育委員会 1995.3
 林 一也・佐藤良二郎・川谷 浩『宇佐地区遺跡群発掘調査概報』Ⅶ 宇佐市教育委員会 1995.3
 河野典之・大久保謙一郎『豊後高田地区遺跡群発掘調査概報』Ⅺ 豊後高田市教育委員会 1995.3
 後藤一重編『香々地の遺跡』Ⅱ 香々地町教育委員会 1995.3
 高木徳郎・菊池大樹・高橋典幸『豊後国田原別符の調査Ⅱ-田原谷の中世石造物-』大田村教育委員会 1994.3
 後藤一重・浜田教靖『波多方の歴史』（豊後国田原別符の調査Ⅲ）大田村教育委員会 1995.3
 高松永治『安養寺古墳発掘調査概報』（日出町文化財報告書1）日出町教育委員会 1995.3
 平川信哉・後藤方彦『杵築地区遺跡群発掘調査概報Ⅵ』（杵築市埋文調査報告7）1995.3

IX. 平成7年度の時代別動向

旧石器時代

1995年度の発掘調査・試掘調査によって旧石器時代の遺物が出土した遺跡は5ヶ所である。このうち重要な成果があったのは天瀬町杉園遺跡・三重町牟礼越遺跡である。この2遺跡は、これまで県下で見つかっていなかった段階に属し、しかも複数の文化層を有する重要な一括資料といえる。旧石器時代の遺跡が発掘されることが多くないだけに、新出の一括資料として注目される。

杉園遺跡では2枚の文化層があり、合せて約2,700点の遺物がある。上層の文化層には角錐状石器が含まれており、筑後川上流では熊本県側の下城遺跡に類例がある。下層は台形椀石器を伴う古い石器群で、A T下位黒色帯の最下部からその下のローム上部に包含されていた。このことから下層石器群は、出土層、石器の両面から見て旧石器時代後期の中でも最古段階の一つに位置づけられよう。この意味で下層の石器ブロックが、最古段階にしばしば観察される環状ブロックの一部であった可能性についての検討が望まれる。

台形椀石器は、近くの宇土遺跡で駒方古屋遺跡で特徴的に観察される截頂ナイフ形石器とともに黒色帯下半(A T下位)から見つかっている。大野川流域での截頂ナイフ形石器はA T下位の黒色帯上半から検出される指標的ナイフ形石器でもあり、杉園と宇土の両遺跡の関係は、杉園下層→宇土下層への層位の新旧が石器組成においても漸移的变化として観察できることが興味深い。石材の変化については、杉園上層・杉園下層では宇土上層と同様にほとんど小国産黒曜石で占められていた。ところが杉園下層よりやや新しい宇土下層においては小国産の他に在地系と考えられるサヌカイトが約半数含まれていた。このことは小国産黒曜石→小国産黒曜石+サヌカイト→小国産黒曜石という変遷をしたことになる。このように杉園遺跡の出土石器は石材組成の問題についても重要な一括資料であるとと言える。

牟礼越遺跡は別府大学と三重町教育委員会の合同で、近年毎年のように調査が続けられている。1995年度の調査では、A T下の黒色帯とその下位のローム層に調査が及んだ。その結果、典型的石器は観察されなかったが、流紋岩の剥片・敲石等が見つかり、確実に台形椀石器段階の包含層の存在が明らかになった(※1996年の調査では石斧・台形椀石器が見つかった)。旧石器時代後期初頭の石器群の調査は機会が少なく、環状ブロックの有無を含めて今後の調査に期待するところが大きい。

さて、大分県のスポーツ公園計画に伴う試掘調査では、一方平Ⅰ～Ⅲ・九池・牧ノ内・論出の各遺跡から旧石器時代後期の遺物が見つかった。特に一方平Ⅰ遺跡が主要な遺跡といえ、剥片尖頭器・角錐状石器の段階の遺物がある。その中には大きな剥片や石核が目立って多い。筆者らの踏査によれば、この付近一帯の礫層中に流紋岩の原石が見つかっており、この点で「大きな剥片・多量の石核」の存在に説明がつくことになった。したがって一方平Ⅰ遺跡は原石産地遺跡の一種で、大分平野周辺遺跡への石材供給拠点と考えられる。

発掘調査報告書として1990年に発掘された机張原遺跡、1990年と1991年に発掘された庄ノ原遺跡J区のレポートがある。机張原の内容は170点の遺跡からなり、1ブロックを完掘したことが判る重要な

一括資料である。しかも石材・個体別分析・剥片剥離技術・石器組成から遺跡の性格にも言及しており、報告書作成の労に敬意を表したい。石器組成からみると、机張原の石器群はナイフ形石器文化終末期に位置づけられ、大分平野周辺で初めての発見である。この石器群の中に角錐状石器・剥片尖頭器・細石刃技術が含まれていないことは重要である。「槍先形尖頭器」と角錐状石器の共伴でその理解と位置づけでゆれる福岡県宗原遺跡や、細石刃技術と角錐状石器・ナイフ形石器が共伴すると信じている研究者に重要な示唆を与えるのが机張原の資料ということになる。

庄ノ原遺跡群J区は机張原に連続する遺跡で、約6000㎡の面積が発掘されたことが報告書に記載されている。ここでは石器ブロックが21ヶ所、礫群が19ヶ所見つかっていることから西日本旧石器時代に関する最大規模の発掘調査があったことが判る。遺物の時期はA T直下・直上の段階と考えられる二側縁加工のナイフ形石器段階、角錐状石器と剥片尖頭器が伴う段階、基部調整ナイフ形石器段階等に属する石器群である。このように重要な内容を有する遺跡群であるだけに今回報告書が発刊されたことを率直に喜ぶたい。剥片剥離技術の復元、個体別資料の分類、遺物接合等の作業は現代日本の旧石器考古学の分野において主要な研究法であり、庄ノ原のような大規模遺跡での集落景観・集団関係等の復元には威力が発揮されるものと考えられる。実は石器類の個体識別を主軸においた各種の研究が西日本で可能な地域は東九州しかないのである。この点から、21ヶ所の石器ブロックが見つかった庄ノ原遺跡において旧石器時代の集落景観・集団関係が詳らかになる可能性は極めて高い。

(綿貫俊一)

縄文時代

縄文時代を主体とする遺物・遺跡の発掘は多くなかったが、注目すべき調査がいくつかみられた。以下、時期ごとにまとめてみたい。

縄文時代草創期に属する細石刃石核が三重町牟礼越遺跡で2点見つかっている。船野型細石刃石核と榎井型細石刃石核に相当し、周辺地域の状況から長者久保・神子架文化並行期と隆起線土器段階に属する例である。この種の細石刃石核を今だに旧石器時代後期に属すると考える研究者も多く、それだけに周辺地域を含めたセット関係の復元と明確な位置づけを期待したい。

縄文時代早期に属する遺物・遺物は、荻町寺ノ前遺跡、同山ノ神谷遺跡群、清川村柿ノ木谷遺跡群、野津町市場久保遺跡、国東原七郎丸遺跡から見つかっている。この中で遺構・遺物がややまとまって見つけたのは、寺ノ前、柿ノ木谷、原七郎丸である。いずれも無文土器単独か、これに押型土器が加わり、若干の集石を伴っている。縄文時代6期のうち詳らかでない早期であるだけに型式学的分類とその平面分布・垂直分布による一括性・同時性をチェックする必要がある。

縄文時代前期の遺物は寺ノ前遺跡と本匠村堂ノ間遺跡で轟式土器片が見つつかっている。特に堂ノ間では土器片にローリングの跡はなく、焼跡・石器類が集中した包含状況を示しており、一括性が高いと考えられる。一括性が高いと予想できる遺物であるだけに、土器型式の再検討、石器組成、石材組成、石材消費過程などの分野で大きな成果が期待される。とりわけ石器組成は遺跡の性格にも連動してくる。石材組成、石器組成も大分県南部の山間に立地する堂ノ間の特徴を詳らかにできるよい機会であろう。

縄文時代中期の遺物は見つかっていないが、縄文時代後期の遺跡は多い。なかでも野津町下原遺

跡と山香町龍頭遺跡は大分県における重要な縄文時代遺跡である。下原では大分県であり発見の多くない中津式・西和田式・福田K2式・コウゴ-松式土器片が多量に出土している。一方石器類は表面採集や試掘時の作業下において一点も出てこない。このことは本格的な調査を行っても、石器は少量であることが予想された。この事実は上記の土器の中に併行するものがあるにしても、基本的にこの遺跡内に石器・石材は持込まれなかったことになり、その場合、遺跡の性格をどう解釈するか問題になってくる。

龍頭では若干のコウゴ-松式土器片と約60基のドングリ貯蔵穴が見つまっている。また貯蔵穴の中には編布袋が7点見つまっている。これらは縄文時代後期の人々の保持した編物や貯蔵技術の一端が明らかになることが予想される大きな成果であり、報文の発刊がまたれる。

報告書類では、国東町教育委員会と大分県教育委員会による横手遺跡群の報文がほぼ同時に発刊されている。国広遺跡・森本遺跡・隔弓遺跡では縄文時代早期・同後期・同晩期終末（弥生時代早期）の一括性の高いセットが見つまっている。遺物が良好であるだけでなく、縄文時代人の生活道具である石器類の組成と、石材獲得状況を物語る石材組成の表が掲載されている。小さな表であるが、石器の重要性を認識させるものである。

最後に旧石器・縄文時代の動向を執筆するなかで気がついたのは、多くの場合後出する時代（時期）の遺構に混在して当該期遺物が見つまっていることである。単純遺跡ではないこうした遺跡の場合、今後旧石器時代・縄文時代の積極的な探査が遺構調査後に行われる必要がある。（綿貫俊一）

弥生時代

本年度の県下における弥生時代遺跡の発掘調査では、日田市吹上遺跡の弥生時代中期前半～中期後半にかけての墳墓群の発見が全国的な注目を得た。今回調査した地点は丘陵の東側端で、木棺墓3基と甕棺8基が発見された。

この中で1号木棺墓は最も古いと言われているが、これは北部九州で通常見られる木棺墓と異なり、両小口は安山岩の板石を立てているのが特徴である。出土遺物は右側部で把頭飾付の細形銅剣である。次いで4・5号甕棺墓が認められる。4号甕棺墓は三個の大型甕棺を用いており、右腕にゴホウラ貝製の腕輪を着装した熟年男性が埋葬されていた。硬石製勾玉やガラス製管玉などの装身具は身に付けた状態であったが、細形銅戈や鉄剣などの武器は副棺に収められていた。5号甕棺墓は両腕に17個のイモ貝製の腕輪を着装した熟年女性が埋葬されていた。さらに8号甕棺墓でも棺外から細形銅戈が出土している。

以上のような遺物は、弥生時代中期頃の北部九州周辺部の王墓クラスの副葬物であり、その在り方、被葬者の親族構造を含めた詳細な検討ができるものとして期待される。

これ以外の墳墓調査としては、弥生時代終末～古墳時代初頭の群集墓として豊後高田市トシノ神遺跡、三光村白木ノ原遺跡が調査され、豊前南部及び豊後地域の成人用石棺墓の出現期がより明確になりつつある。これとは別に大分市尾崎遺跡や挾間町石風呂遺跡のように集落内に1・2基の小児用甕棺が付属しているものがある。このような墳墓の在り方は、特に日田地域に多く認められているものであり、初現期を含めた研究を行う必要がある。

集落遺跡では、久住町板切遺跡は現在のところ、県下で最も標高の高い所にあり、弥生時代後期～古墳時代にかけての中核集落と分村集落が認められている。

環溝集落としては、弥生中期の中津市福島遺跡、同後期前半の宇佐市下原遺跡、同後期末～古墳時代初頭の北屋敷ツル遺跡などが発見されている。福島遺跡は溝の一部の調査であり、多量の土器が出土しているところから、環溝となるかどうかの追跡調査が必要である。下原遺跡では環溝のくびれた部分に獨立柱建物があり、溝内より出土した後期前半の一括土器とともに今後注目される遺跡となるであろう。集落内より出土した遺物として特筆されるものは荻町山ノ神谷遺跡で後漢代の破鏡（内行花文鏡？）が出土しており、この種の鏡片出土地としては最も肥後に近く、入手ルートをどこに求めるか課題となろう。

水田跡は今年も明らかなものはなかったが、大分市下郡73次調査で弥生中期の溝状遺構に水性堆積物が認められており、この付近で水田跡や足痕等の検出も期待できよう。

いずれにしても本年度の県下の注目すべき遺跡としては、墳墓では日田市吹上遺跡、集落では久住町板切遺跡、環溝集落では宇佐市下原遺跡など、今後県下の弥生時代研究に欠かせないものが発見された。
(村上久和)

古墳時代

今年度は古墳時代前期と後期について多くの調査が行われた。

前期古墳の調査では、まず臼杵市中下尾観音寺古墳は葺石を有する径17mの前期中ごろの円墳であることが判明した。これまで不明であった臼塚・下山両古墳に先立つ臼杵地域の前期古墳のひとつが明らかになった。また大野郡三重町の立野古墳の測量調査とトレンチによる範囲確認調査がおこなわれ、馬蹄形の周溝をもち葺石を密にはった前方後円墳で全長は63mになる。また円筒埴輪と壺形埴輪が出土し、円筒埴輪は九州でも最古の埴輪の一例となるだろう。小規模墳の調査としては大分市木ノ上地区で測量調査がおこなわれ、10～20m大の円墳・方墳群が尾根・台地上に20基近く分布する状態がビジュアルに再現された。

集落遺跡としては、環壕居館として知られる小部遺跡の確認調査が継続され、突出部をもつ環壕の内部に方形の布堀溝がめぐるのが確認された。他に前期初頭の溝が検出された大分郡挾間町北屋敷ツル遺跡が調査され、溝内には大量の土器放棄がおこなわれていた。さらに注目される遺跡として標高600m近い久住山のふもとにある直入郡久住町板切遺跡群では前期初頭を前後する竪穴遺構をあわせて54基調査され、大分川上流域に大規模な遺跡群が展開していた様子うかがわれる。

中期の遺跡としてはまとまった調査例はなく、大分市西大寺遺跡や下郡遺跡群の調査のなかで住居跡が検出されているほか中津市幣旗邸1号墳が報告された。

後期の遺跡としては墓地・集落遺跡ともに数多くの調査がおこなわれた。石室墳としては、宇佐市川部高森古墳群内で複室構造の横穴式石室墳が調査されたのみだが、横穴墓の調査例・研究が多い年であった。大分市岩崎横穴墓の報告書が刊行され、大分市内の横穴墓の実測図が集成され便利である。日田市平島横穴墓群では86基の横穴墓が発見され全面発掘が行われ、その成果が期待される。大分市滝尾津守横穴墓群で14基が確認され6基が調査されたほか大野郡犬飼町舞田原遺跡で横穴墓が2基確

認められ1基が調査された。この他に『弥生町誌』のなかで上小倉横穴墓群の報告がおこなわれ、県南部番匠川流域で初めてのものと注目される。このような調査例の増加にともない、池邊千太郎による「豊後の横穴墓」「九州における初期横穴墓と地下式横穴墓」の2論文が発表され、大分県の横穴墓の諸形式と編年が議論された。集落遺跡としては、大分市北の後遺跡では平成6年度以来古墳時代後期の集落遺跡の調査を継続し、あわせて63基の堅穴住居跡を検出した。北の後遺跡に近接する大分市六反田遺跡では後期の集落の一部と同時期の4条の溝が検出され、水利施設と微高地上に進出した集落の一端が明るみにでた。

終末期古墳としては大分市古宮古墳の保存修理事業報告書が刊行された。

今年度は墓地遺跡への関心が高まり、上記横穴墓をめぐる報告研究の他に『おおいた考古』7号において前方後円墳の特集がなされ、三重町重政古墳・臼杵市下山古墳・真玉町野内古墳・大分市小牧山古墳群の測量図と埴輪が報告されるとともに田中裕介による大分県内の首長墳の編年案が示された。これを受けて高橋徹による豊前・豊後の主要古墳編年案が発表され、さらに関心が高まった。また県による主要古墳調査事業が今年度から3ヵ年計画でスタートし、測量図など基礎資料がかけている大型古墳を対象に測量範囲確認・分布調査がおこなわれた。今後の保存・活用に生かされるよう期待したい。今年度は大野川中流を中心におこない、立野古墳はその成果である。(田中裕介)

古 代

平成7年度に調査された古代の遺跡について主要なものを種類別に概観し、研究の動向についても触れてみたい。

官衙・関連遺跡

中津市長者屋敷では掘立柱建物10棟、掘列3条などの遺構と8～9世紀の土器類・円面硯が検出された。遺構の規模、配置、遺物の内容からみて、下毛郡の正倉と推定されている。今後遺跡の範囲を確定する調査が急務となろう。宇佐市瓦塚遺跡は宇佐郡衙と想定されており、平成5年度から小範囲の調査が連続的に実施されている。今回の調査では、方形区画の溝が郡衙内の仏殿と想定されている施設を囲む溝と確認された。大分市の下郡遺跡群は区画整理事業に伴い継続的な調査が実施されている。当該年度にも8世紀～9世紀の遺構が検出されている。E区P-16地点、H区P-19地点では道路状遺構が検出されている。特にE区の例は61次調査で検出された道の延長とされ、直線的に北を指向することから一定の規格性が想定されている。また道路に土師器の埋納が確認され、一種の祭祀行為と考えられている。B区e-15地点では、井戸が調査され、出土した土師器に「家益」の刺書が確認された。下郡遺跡群は東西800m、南北1300mの広範囲に及んでおり、しかも縄文時代から近世と長期間にわたって形成された遺跡である。一つの調査の対象面積はさほど広くなく、結果として「官衙的」な建物や遺物はそれぞれが有為な関連をもって性格付けをするには至っていないが、着実に資料の蓄積がなされている。また、豊後国府の推定地内に位置する羽屋井戸跡も広範な遺跡の取扱い方としては同様であろう。今回ここで検出された掘立柱建物7棟の内1棟は、建坪122.5㎡と県内例では最大規模をもつ。これらの遺構は出土物から7世紀後半と考えられており、国府成立以前の官衙の様相を知る上で重要な発見といえる。猪野新土井遺跡は下郡遺跡の東部に広がる鶴崎丘陵上に立地す

る。5000㎡の調査区では市内初例となる奈良時代の堅穴住居3軒、および平安時代の掘立柱建物が調査された。掘立柱建物群は東西45m、南北60mの長方形溝の区画内に庇付や6間×3間の大形建物を含む15棟で構成されている。規格性をもつ建物構成、輸入陶磁器などの出土品の内容から官衙的な性格が想定され、近接する地蔵原遺跡との関連が考えられている。

寺院・経塚

宇佐市虚空蔵寺跡では主要堂宇に伴う関連遺構を寺域内で確認することを目的として調査が実施された。調査の結果、8世紀末の掘立柱建物1棟が検出されたにすぎないが、遺構の数よりもその位置付けが重要であり継続調査の成果が期待される。経塚では杵築市東光寺経塚群で新たに陶製経筒1、和鏡1面を伴う経塚遺構1基が検出された。

集落

豊後高田市上殿遺跡A、B地区で集落の調査が実施された。とくにA地区では昨年に引き続き調査で掘立柱建物42棟以上、槽列4、土坑、溝などが検出されている。掘立柱建物群は8世紀代に造営されたもので、建替えの状況から4期に区分できる。出土品には太刀金具、青銅製品、土馬などがある。遺跡の性格については明確ではないが建物群の規模や出土品の内容からみて一般集落より上位にあることは確かといえよう。また同市三六田遺跡では掘立柱建物3棟が検出されている。久住町市第Ⅱ遺跡では昨年調査された市第Ⅰ遺跡と同様に奈良時代の堅穴住居が発見されている。日田市石ヶ追遺跡では奈良時代の掘立柱建物8棟、柱建物6棟、堅穴住居8軒などが調査された。遺跡は丘陵から谷を含む範囲におよび、斜面に集落、谷部に水田が位置している。谷部の水田開発の拠点と考えられている。発見例の増加している堅穴に注目したい。

生産

大分市尾崎遺跡では平安時代の土師器焼成坑が発見された。遺構は削平を受けており残存状態はあまり良くない。構造は円形の土坑状を呈す。天井部は遺構内の状況からみて、構築されなかったものとする。床面はほぼ平坦であるが、被熱状況は顕著な部分と稀薄な部分があり様ではない。灰原は床面から斜面に向かって広がっていた。時期は出土した土師器から平安時代前半代と考えられる。このような土師器焼成坑の調査例は本県では初めてである。また近接する清水遺跡でも数か所に被熱赤変し硬化した部分が確認されている。この被熱範囲や周辺にはまったく焼成物や燃焼時の残滓がみられない。遺跡の大半は大きな氾濫を受けた痕跡を残しており、灰原、焼成物がこれによって流出した可能性がある。とすれば、これら被熱範囲を土師器焼成坑の痕跡とは考えられないだろうか。土師器焼成坑の調査例は九州では少なく、今回の調査は土師器の地域的な生産状況、需給関係を知る上で重要な契機となろう。

水田

大分市清水遺跡では弥生後期、古墳時代、奈良・平安時代の墓地、建物、水田などが調査された。とくに2か所で検出した埋没水田は注目された。西地区の水田は旧流路の蛇行部分の狭い範囲に形成されたもので、一区画3㎡以下の小区画水田である。溝、畦畔、田面で構成された水田の状況が確認された。時期は溝から出土した土器から8世紀中頃と考えられる。この遺跡は調査対象地が段丘縁辺部から埋没谷におよんだため、部分的ながら集落と耕作地の景観を同時に窺うことができた。前述の

日田市石ヶ迫遺跡は奈良時代の谷部水田化の状況を示す好例といえよう。

研究・文献ほか

土器研究に関しては「大分大友土器研究」第14号（大分大友土器研究会、1996年2月）において豊後およびその周辺部の古代の土器が中世土器と合わせて集成されている。又、土師器を中心とした編年表が付けられ、8世紀後半から15世紀まで土器の流れが概観できる。大分大友土器研究会は発足2年程であるが、県内の古代・中世土器の検討を中心とした精力的な活動が目を見守る。また九州各地の研究者で構成されている「九州土器研究会」との連携も独自の視野の広さに反映されている。『臼杵石仏』（賀川光夫編集、吉川弘文館、1995年5月）は臼杵石仏を考古学、文献史学などの分野からとらえた出版物である。『日本の古代遺跡49 大分』（橋本信、保育社、1995年6月）は県内を自然地形などにより7地域に区分し、旧石器時代から奈良時代までの遺跡の紹介がなされている。写真を豊富に用いたガイドブックの体裁となっているが、内容的には主要遺跡の概説として利用できる。『風土記の考古学4—豊後風土記の巻—』（小田富士雄編、同成社、1995年5月）は風土記の内容を考古学的方法によって具体的に理解しようとする試みである。古代に関しては「自然遺物にみる原始・古代豊後の食生活」、「豊後における古道と駅制」、「豊後の寺々」などがある。

5月に開催された歴史考古学セミナーは別府大学と宇佐市が共催したもので、宇佐市の白鳳寺院、特に虚空蔵寺跡を巡って考古学、文献史学の立場から論議が交わされた。これには近年相次いで虚空蔵寺の供給瓦窯が発見され、重要な資料が提供されたことが背景にある。虚空蔵寺を考古学個別の課題のみならず、当時の仏教政策の展開の中でとらえようとする内容であった。（小林昭彦）

中 世

調査関係

1995年度の調査で注目される遺跡は、城館関連のものが多かった。山城では玖珠町の角牟礼城である。この角牟礼城は平成5年度から調査が行われているもので、最終年度である平成7年度は、伝二の丸曲輪や搦手門を中心とした部分の調査がなされた。その結果、伝二の丸跡では桁行10m、梁行7mの礎石建物跡が発見され、搦手門跡でも大手門と同規模の礎石建物が発見されている。11月には地元玖珠町で「よみがえる角牟礼城」というシンポジウムも行われた。今後の整備も含め注目を集める城である。

また、このほか弥生町小田山城、玖珠町切株山城で発掘調査が行われたが、従前の知見を越えるものではなかった。さらに、真玉町貴戸の前遺跡では、真玉氏館跡周辺の圃場整備事業にともなって発掘調査が行われた。その結果、館（いわゆる方形館）周辺部に建物の密集する地区があることが分かり、城下の姿をなしていた可能性が高いことが判明した。大分県では大友城下（府中）を除いて初めての事例であり注目される。

一方、発掘調査を伴わない中世城館の縄張り図作成調査も平成7年度から8か年計画で始まった。大分県では、従来から城館の縄張り図の作成はほとんど行われておらず、その総数すら正確に把握されていないような状況にあった。平成4年度の遺跡分布地図作成段階では約300箇所の中世城館が周知されていたが、実態はその倍近くあるのではないとも言われている。最近では台風による風倒木処

理のために林道を拡幅したり、新たに設けたり、あるいは大規模な開発が入ったりと、山上にも開発が及んできており、早急な基礎資料（位置や規模、広がり・構造）の整備が急務となっていたのである。平成7年度には大分市天面山城、日出町鹿鳴越城など計9箇所の城館の調査を行った。今後は主要な城館の縄張り図の作成を順次行う予定である。

また、寺院関係では県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館が平成4年度から引き続き国東半島の六郷山寺院の調査を行っている。平成7年度には末山末寺の報恩寺（武蔵町）、おなじく岩脇寺（豊後高田市）の調査を行っている。発掘調査は行わずに、主に平板測量による寺域空間の把握が目的の調査であるが、歴民のスタッフを生かした多方面からの調査が目玉される。

さらに、院内町蓮華寺では五輪塔の解体修理に伴って下部遺構の発掘調査が行われた。近年では解体修理に伴って年間1〜2件程度石造物の下部遺構の調査がおこなわれているが、多くは墓などの何らかの施設を伴っており、発掘調査無しの安易な石造物の移動は遺構の破壊につながる恐れが大きい事を明らかにしてきた。大きな成果である。中世石造物に対しては、従来の美術史的な考察から、さらに踏み込んだ歴史的な解釈がなされることが期待される。

報告書関係

中世にかかわる遺構が掲載された報告書は何冊か出版されたが、結局遺跡の中の遺構説明に終始するものが多く、その遺跡が地域にあってどのような歴史的、空間的位置付けにあるのかを明確にしたものは少ない。発掘調査という、時代を一足飛びに駆け上がる手段によって集落や水田の一部が我々の眼前にさらされそこから多くの情報を得ることもあるが、現在の景観や地域社会の構造などは前時代のものを受け継いで発展した、あるいは衰退したものであるということも忘れてはならない。現在という薄皮を一枚づつ剥いでいくことによって過去の姿が徐々に明らかになることが多いのもまた事実である。すなわち、発掘調査によって得られた情報は、地域社会の「今」の中に還元されてこそ、初めて意味が見出し得るものなのである。

その一つの方角を示す報告書が出版された。大分県教育委員会が河川改修と道路改良に伴って発掘調査を実施した「横手遺跡群」の報告書である。付図の「横手谷と近隣の地名・同灌漑系図」はわずか一枚の図面ではあるが、多くの情報を得ることができる。それと、遺跡の発掘調査や広範囲にわたる試掘調査の結果などから描き出された横手谷の開発の歴史は、これまでのどの郷土史よりも地域史を雄弁に語っている。

その他

大分において中世考古学関係の研究は極めて低調である。平成7年度も中世墳墓に関するものと土器に関するものがある程度である。前者は原田ほか「旧豊後における「やぐら」の新例」で、大分にも「やぐら」が存在した可能性を示唆したものと、渋谷「大分県における中世墳墓の展開」として中世墳墓の流れを概観したものである。後者は拙著「宇佐高村と中世雑器生産」で、宇佐宮と関連深い高村で中世後半に瓦質土器を焼いた可能性を探ったものである。（小柳和宏）

近世・近代

近年、大分県下でも近世遺跡の調査が盛んに行われるようになり、行政的な手続きを含め、すでに近世遺跡の事前調査が定着したような印象を受けるまでになった。近世関係の調査は城郭関連のものが多いが、そのほかにも城下町や都市部・農村・生産遺跡・墓地・参勤交代道路などの多岐に及んでいる。

角牟礼城(玖珠町)は全国的にも注目されるようになった織豊系城郭で、近年の調査で大手門および搦手門の構造や石垣、二ノ丸の礎石建物の詳細が明らかにされつつある。角牟礼城跡の石垣には搦手門付近の近畿系(いわゆる「古式穴太積」)の見事な石垣と三ノ丸付近の在地系と考えられる小口積み石垣が好対照をなしており、近世初頭の城郭の様相をよく示すものと考えられている。また、1995年11月11・12日には県教委・玖珠町が主催する「よみがえる角牟礼城跡」と題したシンポジウムが開催され、近世の町並み部分なども含まれる今後の整備案がコンピュータ・グラフィックスなどによって提示された。

府内城(大分市)では、史跡整備(府内城再発見事業)に伴い、山里丸・西ノ丸周辺および廊下橋跡の発掘調査が行われ、山里丸の冠木門跡や廊下橋の基礎木杭などが確認されている。また、一昨年度調査された三ノ丸北口跡(現大分県警)の報告書が刊行され、北口門の変遷や出土遺物の詳細が述べられている。城下町の部分では、公園整備に伴い推定塙師町と寺町の一部が調査され、両者の町境も確認されている。

このほか、竹田市や佐伯市でも近世城下町の調査が蓄積されており、今後の成果が期待される。

また、大分市下部遺跡は弥生時代や古代の遺跡として著名であるが、江戸時代後期から幕末前後の多量の出土遺物が認められる地点があり、在地産の土師質土器・瓦質土器の中に良好な個体が存在する。城下町以外の地点での生活様式を知るうえで重要である。

大分市久原第2遺跡では、蔵骨器に使用されたと推定される土師質土器・瓦質土器が埋置された状態で検出されている。土器類の内部からは嬰兒や小動物と思われる骨が出土することがあり、小児墓や愛玩動物(ペット)の墓であったことがわかる。

生産遺跡では、奥嶽焼窯跡(大野郡緒方町)の確認調査があった。当初、窯跡直上に町道の建設が予定されていたが、遺跡の重要性に鑑みて、関係者の努力により、発掘調査以前に町道路線が変更された。従って、確認調査は窯跡本体や物原部分を避け、周辺地域をその対象としている。奥嶽焼は磁器を焼成した江戸時代後期の窯跡で、採集された磁器の一部には小宛焼(大野郡緒方町、幕末の岡藩の藩窯)のそれを廻る型式のものも認められ、注目される。竹田市では明治時代後期の製糸工場(「四山社製糸工場跡」)の調査があった。今年度は病院建設に伴う竹田市委の調査であったが、調査地点は県教委が稲葉川河川改修工事に伴って調査対象とした地点の延長部に当たる。「四山社製糸工場」の来歴については、鳥養孝好氏によって、その詳細が明らかにされている(『大分県地方史』)。近代以降の遺跡についても今後は調査対象となる場合が考えられ、発掘調査の成果を加味した近代史を考究する重要な契機として、近代以降の遺跡を考え直す時期が来ていることは確実である。(吉田 寛)

X. 掲載遺跡一覧

(○あり ◎特にあり)

番号	市町村名	歳別 本 試 掘 掘	遺跡名	旧石器 時代	縄文時代			弥生時代			古墳時代			平安時代			鎌倉 南北期 13,14C	室 時代 15,16C	江戸・明治 大正・昭和 17,18,19,20C
					基	早	中	後	前	中	後	田	中	後	7C	8C			
1	中津市	○	上ノ原平原遺跡									○	○						
2		○	大坪遺跡										○						
3		○	神代奈良															○	
4		○	神代奈良市木地区										○						
5		○	神代奈良小倉地区																
6		○	神代奈良高田地区																
7		○	古城地区																
8		○	柳ヶ池池東遺跡										◎						
9		○	長者屋敷遺跡											◎	◎		○		
10		○	豊田小学校校庭遺跡																
11		○	桜島遺跡三の丸地区				○						○			○			
12		○	稲島遺跡東入原地区										◎						
13	三光村	○	上ノ原平原遺跡												○				
14		○	臼木上ノ原遺跡										○						
15		○	瑞香寺遺跡																
16	耶馬溪町	○	妙ヶ野遺跡															○	
17		○	鏡雲寺八日市遺跡															○	
18	山国町	○	中津遺跡															○	
19	宇佐市	○	宇佐神宮境内遺跡															○	
20		○	藤巻遺跡																
21		○	大北遺跡															○	
22		○	瓦塚遺跡															○	
23		○	川部高森古墳群															◎	
24		○	虚空蔵寺跡北区															◎	
25		○	虚空蔵寺跡中門															◎	
26		○	小部遺跡															◎	
27		○	下原遺跡															◎	
28		○	城井遺跡															◎	
29		○	台ノ原遺跡															◎	
30		○	辻平遺跡															◎	
31		○	畑田遺跡															◎	
32		○	別府遺跡															◎	
33		○	別府遺跡															◎	
34	内町	○	蓮華寺跡石造五輪塔															◎	
35	安心院町	○	奥城古墳															◎	
36		○	小田地区															◎	
37		○	日輪・板場地区															◎	
38		○	大仏屋敷遺跡															◎	
39		○	養理小野台地区															◎	
40		○	中山地区															◎	
41		○	若林地区				○	○										◎	
42	豊後高田市	○	荒尾地区															◎	
43		○	荒尾・私田集落															◎	
44		○	岩屋寺															◎	
45		○	真木大堂															◎	
46		○	トシノ沖遺跡															◎	

(○あり ◎特にあり)

番号	市町村名	類別 本試 未試 未試	遺跡名	旧石器 時代	縄文時代			弥生時代			古墳時代			平安時代			鎌倉 時代	室町 時代	江戸・明治 大正・昭和
					早期	中期	後期	前期	中期	後期	7C	8C	9,10C	11,12C	13,14C	15,16C			
47	豊後高田市	○	松本遺跡							○									
48		○	森田遺跡							◎									
49		○	二六田遺跡				◎							◎					
50		○	上野遺跡A地区										◎	○		○	○	○	
51		○	上野遺跡B地区								○	○	◎						
52	大田村	○	赤松遺跡								○	○							
53	真玉町	○	真戸ノ前遺跡														◎	○	
54		○	和田鼻遺跡								○	○							
55	善々地町	○	早田遺跡														◎	◎	
56	国東町	○	口寺田遺跡													○		○	
57		○	岩戸寺														◎	◎	
58		○	後畑・後田遺跡														◎	◎	
59		○	大恩寺遺跡							○								○	
60		○	照七郎丸遺跡			○											○		
61		○	古瀬遺跡														○		
62	武蔵町	○	今市城跡														○		
63		○	権徳寺														○	◎	
64		○	丸小野寺														○	◎	
65	安岐町	○	小塚地区														○	◎	
66		○	下原地区																
67		○	広長遺跡								○	○							
68		○	光広遺跡																
69	作楽市	○	作楽城下町遺跡															◎	
70		○	東光寺経塚跡															○	
71	山香町	○	龍瀬遺跡				◎			○					○				
72	別府市	○	春木芳元遺跡								○								
73	大分市	○	井ノ久保遺跡B地区																
74		○	乙瀬川遺跡																
75		○	猪野新上井遺跡	○														○	
76		○	岩崎横穴墓															◎	
77		○	塚崎遺跡																
78		○	只瀬山遺跡	○														○	
79		○	上戸次地区																
80		○	七戸次北地区																
81		○	北の後遺跡															◎	
82		○	府内城・城下町遺跡																
83		○	久上御田遺跡																
84		○	久原第2遺跡															◎	
85		○	毛見所遺跡																
86		○	西大寺遺跡																
87		○	下群遺跡61次																
88		○	下群遺跡66・67次															◎	
89		○	下群遺跡68次																
90		○	下群遺跡69次															◎	
91		○	下群遺跡71次															◎	
92		○	下群遺跡73次															◎	

(○あり ◎特にあり)

番号	市町村名	種別 本試 調査 否	遺跡名	旧石器 時代	縄文時代				弥生時代			古墳時代		奈良時代		平安時代		鎌倉 南北朝	室 時 代	江・江・明治 大正・昭和 17,18,19,20C
					早	前	中	後	前	中	後	7C	8C	9,10C	11,12C	13,14C	15,16C			
93	大分市	○	下野遺跡75次						◎	○				○						
94		○	下野遺跡76次						◎	○	○									◎
95		○	城原D遺跡						○									○		
96		○	スポーツ公園	◎	◎															
97		○	清水遺跡						○	○										○
98		○	滝尾津守塚六基群										◎							
99		○	利光遺跡														○	◎		
100		○	野州遺跡	◎																
101		○	柳登地区																	
102		○	羽屋井戸遺跡									◎		◎						
103		○	府内城跡																	
104		○	府内城下町遺跡					○												◎
105		○	滝尾遺跡群B-11																	○
106		○	滝尾遺跡群D-29, E													◎				○
107		○	滝尾遺跡群D-38, 41																○	○
108		○	六反田遺跡									◎			○					
109		○	横塚2遺跡						◎											○
110	野津原町	○	町遺跡						○											
111		○	下原遺跡						◎											
112	狭間町	○	石風戸遺跡								◎									
113		○	北屋敷ツル遺跡								○									
114	臼杵市	○	家野遺跡																	
115		○	臼杵石仏群地城														◎	◎	○	
116		○	大野泉遺跡																	
117		○	京川遺跡																	
118		○	史跡臼杵城跡																	○
119		○	下中尾遺跡									○								◎
120		○	野村台遺跡				○					◎	○	○			○	◎	○	○
121	弥生町	○	小田山城跡																	○
122	佐伯市	○	大野地区																	
123		○	柳形御香所遺跡																	○
124	本匠村	○	堂ノ岡遺跡									○	○							
125		○	堂ノ岡遺跡				◎			○										○
126	犬飼町	○	ト夕津留遺跡																	○
127		○	川口・先ノ原遺跡																	
128		○	舞田原遺跡											○						○
129		○	下津尾遺跡																	○
130	野津町	○	市場久保遺跡	○	◎			○		○										○
131		○	土橋遺跡																	
132		○	渡津久保遺跡	○																
133		○	持丸遺跡																	
134	千歳村	○	大道遺跡										◎							
135	大野町	○	駒方寺畑ヶ遺跡																	
136	三重町	○	飯馬場遺跡																	
137		○	重政遺跡																	
138		○	茶屋久保遺跡																	

掲載遺跡一覧表

(○あり ◎特にあり)

番号	市町村名	種別 本調査場	遺跡名	旧石器		縄文時代					弥生時代		古墳時代		平安時代		鎌倉 13,14C	室町 15,16C	江戸・明治 17,18,19,20C
				時代	草	早	別	中	後	後	前	中	後	7C	8C	9,10C			
139	三重町	○	立野古墳													○			○
140		○	妙原館跡																
141		○	牟礼越辺跡	◎	○														
142		○	横田遺跡		○				○									○	
143	清川村	○	榑ノ木谷遺跡			◎													
144	越方町	○	大石遺跡						○	○									
145		○	奥御炊堂跡																○
146	駒込町	○	下野遺跡										○				○		
147		○	鳥屋遺跡			○													
148		○	市野日遺跡								○		◎				○	○	
149	久住町	○	板切遺跡(Ⅰ～Ⅳ)								○	○					○		
150		○	尾首遺跡											○				○	
151		○	小原田遺跡															◎	○
152		○	弘原第1遺跡															○	○
153		○	弘原第2遺跡												○				○
154	竹田市	○	穴井迫第2遺跡						○	○									
155		○	喜多村家簡倉跡																◎
156		○	四山社製糸工場跡																○
157		○	史跡岡城跡																◎
158		○	戸上遺跡																
159		○	中川午之助屋敷群																◎
160		○	野口遺跡																
161		○	野原家屋敷跡																◎
162	茨町	○	寺ノ前遺跡			○	○			○									
163		○	茶屋ノ元上後迫遺跡																
164		○	火渡地区																
165		○	山ノ神谷遺跡			○	○				○	◎							
166	九重町	○	釣遺跡						○								○		
167	玖珠町	○	角牟礼城跡															○	
168		○	浅井山風跡														○		
169	天瀬町	○	原遺跡																
170		○	杉園遺跡(第1)	◎								○	○						
171		○	杉園遺跡(谷部)																
172	日田市	○	朝日ヶ丘遺跡			○		○											
173		○	有田塚ヶ原遺跡			○										○			
174		○	石ヶ迫遺跡			○						○				○	○		
175		○	城宮岡跡																○
176		○	クヒリ遺跡													○	○		
177		○	朝四郎遺跡										○	○			○		
178		○	徳瀬遺跡							○									
179		○	平島横穴墓群																◎
180		○	歌上遺跡							○	○						○		
181		○	三和敷田遺跡					○	○										
182		○	会所宮遺跡							○		○	○						
183		○	村前遺跡														○		
184		○	赤迫遺跡											○					

索引

- あ
あいはらやまくび(相原山首・中津市) 173
あかさこ(赤迫・日田市) 172
あかさこひがし(じゅうぜんがき)(赤迫東(十前垣)
・中津市) 193
あかまつ(赤松・大田村) 55
あきくに(秋国・国東町) 180
あさひがおか(朝日ヶ丘・日田市) 187,191
あないさこだいに(穴井迫第2・竹田市) 141
あらお・はらいだじょうり(荒尾・払田条里・
豊後高田市) 48
あらおちく(荒尾地区・豊後高田市) 47
ありたつかがはら(有田塚ヶ原・日田市) 158,192
あんこくじ(安国寺・国東町) 194
- い
いえの(家野・臼杵市) 112
いしがさこ(石ヶ迫・日田市) 159,160,192
いしぶろ(石風呂・挾間町) 110,185
いたきりいせきぐん(飯切遺跡群・久住町) 137,138
いちだいに(市第Ⅱ・久住町) 136
いちばくぼ(市場久保・野津町) 125
いちほま(市浜・臼杵市) 187
いなおだ(稲男田・中津市) 173
いぬまるがわりゅういき(犬丸川流域・中津市) 193
いのかほ(井ノ久保・大分市) 75
いのしんどい(猪野新土井・大分市) 76
いまいちじょうし(今市城跡・武蔵町) 65
いわさきよこあな(岩崎横穴墓群・大分市) 77
いわとじ(岩戸寺・国東町) 61
いわわきじ(岩崎寺・豊後高田市) 49
- う
うえのはらよこあなぼぐん(上の原横穴墓群・
玖珠町) 195
うえのはるかきさこ(上ノ原柿迫・安心院町) 176
うえのはるくりがさこ(上ノ原栗ヶ迫・安心院町) 176
うえのはるひらばる(上ノ原平原・中津市) 16
うえのはるひらばる(上ノ原平原・三光村) 24
うさじんぐうけいだい(宇佐神宮境内・宇佐市) 29
うしろはた・うしろさこ(後畑・後迫・国東町) 62,180
うすきえうのはる(臼木上ノ原・三光村) 25
うすきせきぶつぐんちいき(臼杵石仏群地域・臼杵市) 112
うちかわの(内川野・安心院町) 176
- え
えのくますぎした(彦根杉下・大分市) 184
えぶち(江淵・那馬溪町) 174
- お
おおいし(大石・緒方町) 133
おおきた(大北・宇佐市) 30
おおざいおき(大在神・大分市) 183
おおざいだいに(大在第二浜・大分市) 183
- おおざいまどころ(大在政所・大分市) 183
おおさこ(大道・千歳村) 127
おおぞの(大園・宇佐市) 175
おおつば(大坪・中津市) 16
おおの(大野・臼杵市) 113
おおの(大野・那馬溪町)
おおのちく(大野地区・佐伯市) 118
おおみちばた(大道畑・中津市) 173
おかりば(御狩場・臼杵市) 187
おきだじょうり(沖代条里・中津市) 17
おきだじょうり(沖代条里(市木)・中津市) 18
おきだじょうり(沖代条里(小倉)・中津市) 19
おきだじょうり(沖代条里(高田)・中津市) 19
おくじょうこふんおおひらせかんでん
(奥城古墳太平石棺群・安心院町) 44
おくだけやきかまあと(奥跡施高跡・緒方町) 134
おくび(尾首・久住町) 138
おざき(尾崎・大分市) 78
おたけ(小武・山香町) 182
おだちく(小田地区・安心院町) 44
おだやまじょうあと(小田山城跡・弥生町) 118
おといんやしき(乙院屋敷・大分市) 75
おぼた(御幡・宇佐市) 29
おほらだ(小原田・久住町) 139,189
おまた(小俣・安岐町) 180
おまたちく(小俣地区・安岐町) 68
- か
かいがらやま(貝殿山・大分市) 79
かきぞい(カキゾイ・安岐町) 181
かきだき(掻巻・臼杵市) 194
かきのきだに(柿木谷・糟川村) 132
かどた(門田・香々地町) 179
かみどの(上殿・豊後高田市) 54,55
かみへつぎ(上戸次・大分市) 80
かみへつぎきた(上戸次北・大分市) 80
かみやまだよこあなぼぐん(上山田横穴墓群・宇佐市) 193
かわさき・いたばちく(川崎・飯塚地区・安心院町) 45
かわじいけ(かわじ池・湯布院町) 185
かわわたかもりこふんぐん(川部高森古墳群・
宇佐市) 33・33
かわらづか(瓦塚・宇佐市) 31
- き
きこ(亀籠・国見町) 179
きたのうしろ(北ノ後・大分市) 81,184
きたむらけやしきあと(喜多村家屋敷跡・竹田市) 142
きたやしきつる(北屋敷ツル・挾間町) 111,185
きつきじょうかまち(杵築城下町・杵築市) 71
きどのまえ(貴戸ノ前・奥玉町) 56
きょうかわ(京川・臼杵市) 113
きりかぶさんじょうあと(茂株山城跡・玖珠町) 154
- く
くぎ(クギ・豊後高田市) 177

くちでらだ(口寺田・国東町)	60,180
くどまえた(久土前田・大分市)	82
くぼるだいに(久原第2・大分市)	83
くびり(クビリ・日田市)	162,192
くもばやし(雲林・豊後高田市)	177
くろほうし(黒法師・罪馬溪町)	174
け	
けみどころ(毛貝所・大分市)	84,183
けんしていしせきうすきじょうあと (県指定史跡臼杵城跡・臼杵市)	114
こ	
こうしろう(郷四郎・日田市)	163
こうちだにおちやあと・こうちだにばばあと (河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡・竹田市)	180
こくぞうじ(虚空蔵寺跡(北区)・宇佐市)	34
こくぞうじ(虚空蔵寺跡(中門)・宇佐市)	35
こじょうさん(古城山・大分市)	183
こじょうちく(古城地区・中津市)	20
ごたんだ(五反田・豊後高田市)	178
こべ(小部・宇佐市)	36
こまがたてらばたけ(駒方寺畑々・大野町)	128,188
さ	
さいだいいいせき(西大寺・大分市)	85,183
さかぐち(坂口・香々地町)	179
さくらのはば(桜馬場・三重町)	128
さづる(左津留・臼杵市)	187
さでらよこあなぼくん(佐寺横穴墓群・日田市)	191
さんがつか(三ヶ塚・竊方町)	188
し	
しきどじょうつる(敷戸城津留・大分市)	184
しげまさ(重政・三重町)	129
しごんしゅせいしこうじょうあと (四山社製糸工場跡・竹田市)	143
しせきおかじょうあと(史跡岡城跡・竹田市)	144
しせきかんぎんあと(史跡成宜園跡・日田市)	161
したかね(下金・扶間町)	185
しはおだい(芝尾台・臼杵市)	186
しもごうり(下郡・大分市)	86~93
しもたつる(下夕津留・犬飼町)	122
しもつお(下津尾・犬飼町)	124
しもなかお(下中尾・臼杵市)	115
しももの(下野・朝地町)	135
しものはる(下原・宇佐市)	37,175
しもばる(下原・野津原町)	109
しもばるちく(下原地区・安岐町)	68
じょうおうまえ・たぶち(十王前・田淵・杵築市)	181
じょうい(城井・宇佐市)	38
しょうじ(小路・香々地町)	179
じょうはる(城原D・大分市)	94
じょうすい(如水井・中津市)	173
じんりょうかいずか(神領貝塚・杵築市)	182
ず	
ずいろうんじ(瑞雲寺・三光村)	26

ずいろうんじ・ようかいち (瑞雲寺・八日市・罪馬溪町)	28,174
すぎその(杉原・天瀬町)	155,195
すばうつこうえん(スポーツ公園・大分市)	95
そ	
そうず(清水・大分市)	96
そうず(赤水・直入町)	189
た	
だいおんじ(大恩寺・国東町)	63
たいだ(太田・日出町)	194
だいはる(谷ノ原・宇佐市)	39
だいぶつやしき(大仏屋敷跡・安心院町)	45,176
だいま(大鷹・安岐町)	181
たかいわ(高岩・久住町)	189
たかくら(高倉・臼杵市)	186
たかだじょうしゅうへん(高田城周辺・豊後高田市)	178
たかみぼち(高見寺墓地・臼杵市)	187
たきおつもりよこあなぼくん (滝尾津守横穴墓群・大分市)	97
たしのだい(田篠台・臼杵市)	186
たてのこふん(立野古墳・三重町)	130
たにはる(谷ノ原・真玉町)	179
ち	
ちやのくぼ(茶屋久保・三重町)	129
ちやのつじきんせいぼちぐん (茶屋ノ辻近世墓地群・竹田市)	190
ちやののもと・かみうしろごこ (茶屋ノ元・上後迫・萩町)	149
ちやうじゃやしき(長者屋敷・中津市)	21,173
つ	
つじ(辻・扶間町)	185
つじひら(辻平・宇佐市)	40,175
つむれじょうあと(角半礼城跡・玖珠町)	153
つまがけおののだいちく(妻垣小野台地区・安心院町)	46
つる(釣・九重町)	152,190
つるみだけ(鶴見嶽・湯布院町)	186
て	
でぐち・さきのはる(出口・先ノ原遺跡群・犬飼町)	122
ではる(出原・安心院町)	176
てらのまえ(寺ノ前・萩町)	148
と	
とうえ(戸上・竹田市)	145
とうこうじきょうづかぐん(東光寺経塚群・杵築市)	71
どうのみ(堂ノ間・本匠村)	119
どうのみ(堂ノ間・本匠村)	120
とくぜ(徳瀬遺跡C地点・日田市)	164,195
としのかみ(トシノ神・豊後高田市)	51
としみつ(利光・大分市)	98
どばし(土橋・野津町)	126
とや(鳥屋・朝地町)	136
とよたしょうがっこうこうてい (豊田小学校校庭・中津市)	22

- な
 なかおばる(中尾原・天瀬町) 191
 なかがわうまのすけやしき
 (中川午之助屋敷跡・竹田市) 146
 ながた(長田・宇佐市) 175
 なかたけなな・こや(中竹中・小屋・大分市) 183
 なかま(中摩・山国町) 28,174
 なかやましく(中山地区・安心院町) 46
 なしかに(ナシカ谷・豊後高田市) 178
 なりすえ(成末・日出町) 182
- に
 にしのまた(西ノ股・宇佐市) 175
- の
 のぐち(野口・竹田市) 146
 のだ(野田・大分市) 99
 のだけやしきあと(野田家屋敷跡・竹田市) 190
 ののやしきあと(野殿屋敷群・竹田市) 147
 のむらだい(野村台・臼杵市) 116
- は
 はたのぼりちく(靖豊地区・大分市) 100
 はたけだ(畑田・宇佐市) 41
 はたけつぼみずあらい(畑坪・水洗・山国町) 174
 はつくきた(波津久北・野津町) 126
 はやいど(羽屋井戸・大分市) 101
 はら(原・天瀬町) 154
 はら(原・臼杵市) 186
 はらしちろまる(原七郎丸・国東町) 84
 はるきよしもと(春木吉元・別府市) 73
- ひ
 ひがしやしき(東屋敷・宇佐市) 175
 ひとつと(一ツ戸・耶馬溪町) 174
 びゅう(別府・宇佐市) 41
 びゅう(別府・宇佐市) 42
 ひらおかだい(平岡台・臼杵市) 186
 ひらしまよこあなぼぐん(平島横穴墓群・日田市) 165,166
 ひろなが(広永・安岐町) 69,181
 ひわたし(火渡地区・萩町) 149
- ふ
 ふきあげ(歌上・日田市) 167,168
 ふくしま(福島(三ノ丸)・中津市) 22
 ふくしま(福島(東入垣)・中津市) 23
 ふつばるだいいち(仏原第Ⅰ・久住町) 139,189
 ぶつばるだいに(仏原第Ⅱ・久住町) 140,189
 ふないじゅうし(府内城跡・大分市) 102
 ふないじゅうじょうかまち(府内城下町・大分市) 81,103
 ふるとの(古殿・国東町) 65
- へ
 へびばたけ(蛇畑・宇佐市) 176
- ほ
 ほうおんじ(報恩寺・武蔵町) 66
 ほかぞの(外園・国東町) 180
 ほりたがわ(堀田川・大田村) 178
- ま
 まいたばる(舞田原・犬飼町) 123
 まがり(曲・大分市) 184
 まきのおどろ(真木大堂・豊後高田市) 50
 まじろ(馬代・臼杵市) 187
 ますがたごばんしょ(例形御番所・佐伯市) 119
 まちうら(町裏・野津原町) 108,185
 まつき(松木・九重町) 190
 まつざか(松坂・宇佐市) 175
 まつもと(松本・豊後高田市) 52,177
 まるおのじ(丸小野寺・武蔵町) 67
 みくち(三口・中津市) 193
 みつひろ(光広・安岐町) 70
 みつよし(光吉・大分市) 184
 みやざき(高崎・大分市) 184
 みやのものとした(宮ノ元ノ下・真玉町) 179
 みょうがの(妙ヶ野・耶馬溪町) 27,174
 みょうしょういんあと(明照院跡・三重町) 131
 みろくでん(三六田・豊後高田市) 53
 みわきょうだ(三和教田・日田市) 169
- む
 むこうやまで(向山手・竹田市) 190
 むつえだ(六ツ枝・安岐町) 181
 むらまえ(村前・日田市) 171,191
 むれこし(牟礼越・三重町) 131
- も
 もちまるばる(持丸原・野津町) 127
 もりた(森田・豊後高田市) 52
- や
 やすむね(安旨・安岐町) 181
 やなぎがきこいけひがし(柳ヶ道池東・中津市) 20
 やまのうち(山ノ内・日出町) 194
 やまのかみだにいせきぐん(山の神谷遺跡群・萩町) 150
- ゆ
 ゆうたよこあなぼぐん(夕田横穴墓群・日田市) 191
- よ
 よこおいせきぐん(横尾遺跡群・大分市) 104~106
 よこた(横田・三重町) 132
 よこつかだいに(横塚第2・大分市) 108
 よしまついちば(吉松市場・安岐町) 181
 よせけしょうやしき(余瀬家庄屋敷・香々地町) 179
 よそみや(会所宮・日田市) 170
- り
 りゅうず(龍頭・山香町) 72
- れ
 れんげじあとごりんと(蓮華寺跡五輪塔・院内町) 43
- ろ
 ろくたんだ(六反田・大分市) 107
- わ
 わかばやしちく(若林地区・安心院町) 47,177
 わさだ(早田・香々地町) 58
 わだばな(和田鼻・真玉町) 57,179

大分県埋蔵文化財 5

—— 平成7年(1995)年度版 ——

発行日 1997年3月31日

編集・発行 大分県教育委員会

〒870 大分市府内町3丁目10番1号

TEL (0975) 36-1111 (内5497)

印刷 佐伯印刷株式会社